

香川大学 教育学部 後援会会報



2026.9 第23号

幸楠会
KOUNANKAI

目 次

○ ご挨拶（後援会会長）	1
○ 香川大学教育学部後援会「幸楠会」の皆様へ（教育学部長）	2
○ コース・分野・領域等の紹介 ・学校教育教員養成課程	3
○ 教育学部附属教職支援開発センターの紹介	12
○ 教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）の紹介	14
○ 学部だより ・令和8年度行事予定	18
・令和8年度教育実習計画	19
・学校教育教員養成課程の活動紹介	20
・教員の研究活動紹介	24
・交流教員の活動紹介	28
○ 地域連携 ・香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧	30
・第24回「未来からの留学生」	34
○ 国際交流 ・2025年度の国際交流活動	35
・国際交流体験記	36
○ 学生の活動 ・「教職自主サークル」の活動紹介	40
○ 学務事務からの情報	43
○ 進路選択と就職・進学支援活動	45
○ 教育学部後援会（幸楠会）総会報告	51
○ 教育学部後援会（幸楠会）会則	56
○ 教育学部教員一覧	57

ご挨拶

香川大学教育学部後援会会長
廣瀬 雄一郎

香川大学教育学部後援会（幸楠会）の会員の皆様には、日頃より後援会活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、この春、めでたくご入学されました学生の皆様並びにご家族の皆様に、心よりお祝い申し上げます。

本後援会は、教育学部と家庭との連携を密にし、学部が実施する教育事業を支援することを目的として、昭和24年に設立されました。以来、80年近くにわたり長い歴史と伝統を有しております。会員は教育学部の学生の保護者及び教育学部の教職員で構成され、会員の皆様からお寄せいただいた貴重な会費等をもとに、学生のため、また学部の発展のために様々な支援を行っています。

さて、近年、教員を取り巻く環境については様々な課題が指摘され、教員志望者の減少が全国的な課題となっています。一方で、教員が子どもたちと向き合う時間をより確保できるよう、働き方改革や部活動の地域移行、教職員を支える体制づくりなどが着実に進められています。香川大学教育学部は、長年にわたり香川県をはじめ地域の学校教育を支える多くの優れた教員や教育に携わる人材を育成し、地域社会の発展に貢献してまいりました。学生の皆さんには、教育の専門性を身に付けるとともに、人を育てることの意義や教育の果たす役割について理解を深めていただきたいと思います。そして、教員として教育の現場に立つ道を選ぶ方はもとより、教育学部で培った豊かな人間性や実践力を生かして様々な分野で社会に貢献される方も、それぞれの志を胸に大きく成長されることを心より願っています。

また、国から大学へ交付される運営費交付金の一部は、文部科学省が定める共通の指標による評価に基づき、大学ごとに傾斜配分される制度となっています。さらに、国立大学法人を取り巻く厳しい財政状況や近年の物価高の影響もあり、教育に必要な予算の確保は年々厳しさを増しています。このような状況の中、後援会による支援は、充実した教育環境を維持するうえで、ますます重要となっています。

会員の皆様におかれましては、大学を取り巻く状況をご理解いただくとともに、教育学部が質の高い魅力ある教育を提供し、地域社会に貢献する人材を育成していくためには、教育学部が行う様々な活動や学生の自主的な活動を側面から支援していくことが重要であると考えております。今後とも、教育学部と連携しながら教育環境の充実と学生支援に取り組み、皆様からお寄せいただく会費を学生の学修活動や課外活動、就職支援など様々な事業に有効に活用してまいります。教育学部と学生のさらなる発展のため、引き続きご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、平学部長をはじめ、教育学部の諸先生方には日頃より格別のご指導を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

「幸楠会」会員の皆様へ

香川大学教育学部長
平 篤 志



香川大学教育学部後援会「幸楠会」会員の皆様には、日頃より本学部の教育・研究活動に対して温かなご支援・ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。2026年度もはや4ヶ月が過ぎ、キャンパスは夏の日差しが眩しい季節になりました。4月に入学した新入生も大学生活にすっかり慣れてきた頃だと思います。

一方で、国内外ではいろいろな面で激動の時代を迎えつつあります。世界では、終わりの見えないロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの Hamas との紛争、スーダンの内戦などに加え、アメリカ合衆国とイランの対立がホルムズ海峡封鎖を招き、石油製品をはじめとして石油素材の包装材等の値上がりにつながり、日本を含み世界の各国で負の影響が拡大しています。

日本国内では、少子高齢化と東京への一極集中が依然として続いており、2020年から2025年までの間に国の人口が300万人程度減少したと報道されています。2025年の出生数は、国の想定より15年も早い水準の67万程度に留まって過去最低を記録したとのこと。一方、香川県では、同年の出生数は5,103人、出生率は1.40となり、4年ぶりに前年を上回ったと報じられ、この傾向が続くことが期待されます。

もう1つの大きな動きは、AIの急速な発展と普及です。ChatGPTが普及し始めた数年前は、例えば教育現場においては利用を制限する動きもありましたが、今日ではそれをどのように使いこなすかに比重が移ってきています。アメリカ合衆国などでは、AIの普及により、企業によっては事務職を削減する動きもあります。人間社会にとってマイナスの影響が出ないよう、細心の注意を払う必要があります。教育現場では、多文化共生、多様性、インクルージョンといった言葉が多用されるようになっていますが、AIやロボットとの共生も課題になるかも知れません。

香川大学教育学部では、一昨年の入学試験より、香川県での教師を目指す受験生向けの香川県教員希望枠（10名）を推薦入試に導入するとともに、一般入試では前期・後期のそれぞれに面接を取り入れ、これまで以上に学校教員を中心に広く教育界で活躍することのできる人材の養成に力を入れています。入学後は、1年生から4年生までの一貫したカリキュラムの下、講義、実験・実習、演習とさまざまな形態の授業を受ける中で、主体性とチームワーク力を磨いていきます。3年次と4年次の教育実習では、附属学校園において子どもたちを相手に自らの教育力を試します。そして、4年間の学びの成果を卒業研究にまとめます。

これからも、皆様からのご支援をしっかりと活用できるよう努めていきたいと思っています。変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

【コース・分野・領域等の紹介】

◇学校教育教員養成課程

幼児教育コース

幼児教育コースは、人間の生涯にわたる発達と教育についての幅広い知識を背景に、乳幼児の心理や発達、保育・幼児教育の目標や内容、計画や評価、制度や歴史などを総合的に学びます。さらに授業内外を通じて積極的に保育現場に出かけることで、乳幼児に接しながら実践的な体験を積み重ね、理論的な視点と結びつけて課題を見つけ、探求することを重視しています。

幼児教育コースの履修基準を満たすと、幼稚園教諭1種免許状と保育士資格を取得することができます。多様なカリキュラムを通じ、家庭・地域における子育て支援も視野に入れた保育者（幼稚園教諭・保育士）の養成を目指しています。授業単位を積み増すことで、小学校・特別支援学校の教員免許の取得が可能であり、ほとんどの学生は小学校教諭1種免許状も取得して卒業します。

研究室活動や授業の中で、地域と連携し乳幼児や保護者を対象としたイベントを継続して行っています。そこでは、準備から実施、振り返りを通して学生相互の人格的な交流が図られるとともに、地域に貢献する活動としての評価も得ています。2025年度のオープンキャンパスでは、おもちゃ製作や「ヘンゼルとグレーテル」の人形劇を2年生中心に行い、高校生の皆さんに見てもらいました。また「未来からの留学生」では、シャボン玉遊びをしたり、たくさんの紙コップを積みんだり、重ねたりするコーナーを提供し、地域の子どもたちや保護者の方と交流しました。特別講義は、多様化する卒業後のキャリアパスの実情をふまえ、学生たちが自分に合った進路選択をするための支えとなることをねらいに開催しました。『保育者として働く』というテーマを設定し、卒業後にさまざまな経歴をたどりながら保育職として現在活躍している、卒業生3名（男性1名含む）の話から学ぶことができました。“おさんぽプロジェクト 扇町保育所×幼児教育コース”では、大学近隣の高松市立扇町保育所の子どもと学生たちが共に、キャンパス内で季節にあった遊びを継続的に楽しんでいます。互いの交流を深めつつ、実際の子どもの姿を学ぶ貴重な機会となっています。

専任教員は、4月より新たに長山弘（幼児音楽、保育内容の指導法（幼児音楽）などを担当）が加わりました。片岡元子（保育原論、保育者論などを担当）、藤元恭子（幼児体育、保育内容の指導法（身体表現）などを担当）、松本博雄（乳幼児心理学、保育内容の指導法（言葉）などを担当）、吉川暢子（幼児図画工作、保育内容の指導法（幼児造形）などを担当）、松井剛太（社会福祉原論、障害児の保育などを担当）と合わせ、6名体制で運営しています。現在、幼児教育コースには、1年生・2年生各10名、3年生11名、4年生11名の計42名が在籍しています。就職状況は良好で正規採用率も高く、多くは幼稚園・保育所・こども園等の現場に就職し、活躍しています。



小学校コース・教育領域

教育領域は、教育学を基礎として、学校教育はもちろんのこと、教育という営みそのものや、現代の教育をめぐるさまざまな課題について、教科の枠を超えて学ぶ領域です。教員に求められる知識・技能、学校現場や子どもの理解に加え、学校や教員、子どもを取り巻く社会環境にも目を向けながら、教育を広く、そして深く探究することを目指しています。1学年20名前後という規模を活かし、演習、すなわち少人数での作業や議論を中心とした授業や、卒業研究を重視した指導を行っています。卒業生の多くは県内外の教員として活躍していますが、自治体や民間企業等に就職する学生もあり、小学校教員養成を軸としながらも、学生一人ひとりの関心や特性を踏まえた指導・支援を大切にしています。

令和8年度は20名の2年生が新たに加わり、3年生19名、4年生23名の62名で構成される、学校教育教員養成課程の中でも大所帯で、個性豊かな集団です。教員免許取得に必要な教科に関わる授業では、他領域の学生と共に学ぶ機会も少なくありません。その一方で、教育領域には領域独自の学びや取組も多くあります。以下では、その一端を紹介します。

2年次には、教育領域の全教員がオムニバス形式で担当する「教育学演習Ⅰ」があります。この授業を通して、学生は多様な教育学的視点に触れるとともに、学生同士、また教員とのつながりを深めていきます。2・3年次の学生が受講する「教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ」では、異学年が混在する集団を4グループに編成し、教員の支援を受けながら、学生たちが自主的に設定したテーマを探究します。その成果は、8月のオープンキャンパスや夏合宿で披露されます。3年次からはいわゆるゼミに所属し、2年間で、自らの関心に基づいて設定した自由で多様な研究テーマを深掘りし、卒業論文として完成させます。

教員は、高須、柊澤、小方、香川県教育委員会との交流人事教員である大和田、川原の5名で、卒論指導においては教職支援開発センターとの兼担である山岸、教職大学院との兼担である笹屋を加えた計7名体制で、きめ細かな教育を行っています。授業外でも教育領域には年間を通して多様な行事があります。卒論構想発表会、2年生歓迎コンパ、小豆島での夏合宿、「未来からの留学生」という創作劇の発表、卒論発表会、4年生送別コンパ等です。学生の志向の多様化だけでなく社会も大きく変化する中で、伝統を受け継ぎながら、新たな学びの形をつくっていくことが求められています。学生の主体性を尊重しつつ、すべての学生が自分らしく学び、成長できる場であり続けたいと考えています。



【新入生の歓迎】



【未来からの留学生】



【卒論発表会】

教育課題探究分野 心理領域

心理領域では、教育者として必要な心理学的知識と技能の習得をめざしています。2年次から、教職科目と並行して、必修科目である心理学実験と心理検査がはじまります。2週間に一つずつ心理学実験や心理検査を実施し、レポートにまとめ、添削指導を受けながら専門的な力をつけていきます。3年次になると、必修科目として教育心理学演習と教育心理学実験も加わり、毎週、学術論文の購読や心理統計法を用いたデータ解析、データをわかりやすく提示するための図表の作成や研究成果のプレゼンテーション等に取り組み、その中で研究を遂行し、他者に伝えるための力を身に付けていきます。グループ討議では、心理学に関連する課題について、異なる視点や意見を尊重し合いながら議論を行っています。こういった力は、4年次の卒業研究に結びつくだけでなく、将来の学校現場での実践研究にもつながるものです。

令和8年度の教育学部心理領域の学生数は、2年生14名、3年生12名、4年生12名の合計38名です。教員は、大久保智生、岡田涼、宮前淳子の3名です。

心理領域では、年間を通してさまざまな行事を行っています。例年は、新2年生を対象としたガイダンスをはじめとして、歓迎会、送別会などを開催し、心理学教室の懇親を深めています。8月には、心理領域の学生と教員が全員参加しての卒業論文の中間発表会を行いました。また、2月には、大学生活の集大成となる卒業論文発表会を開催しました。4年生は、各自が設定した研究テーマについて考えを深め、研究の成果をひとりひとりが堂々と発表することができました。問題意識に基づいて仮説をたて、データを収集し、分析し、結論を導き出すといった一連のプロセスのなかで、問題解決能力を高めるだけでなく、様々なスキルを身につけることができました。発表会の司会進行もすべて学生が行い、研究発表に対する質疑応答も活発に行われました。学びとは決して一人だけで深めていくものではなく、対話を通してこそ豊かになっていくものだと感じております。今後も、互いに刺激を受けながら、共に成長していける時間を大切に積み重ねていきたいと願っております。

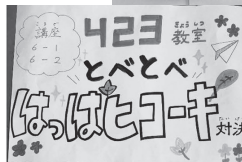


教育課題探究分野 生活・総合領域

令和8年度の生活・総合領域は4年生12名、3年生12名、2年生10名です。主担当教員は寺尾徹、轟木靖子と山下直子の3名です。4年生の卒業研究の指導については、副担当教員の岡田涼先生（心理）と三宅岳史先生（社会）にも、ご協力いただいています。

生活領域2年生の必修科目である「総合教育基礎演習」では、植物の栽培活動に継続的に取り組んでいます。栽培活動は小学校の生活科でも広く実践されていますが、すべての子が意欲をもって取り組めるわけではなく、働きかけの工夫が大切です。どうすれば子どもたちが意欲的に活動できるかを、学生たちが実際に栽培をおこない意見交換しながら探っていくことをねらいとしています。学生たちは、それぞれ育てたい野菜を選んで育て、日々の水やりや観察を通して、さまざまな気づきを得ています。今年度も、5月に種や苗を植える活動を実施しました。

また、香川大学教育学部で例年10月におこなわれる行事「未来からの留学生」に向けて、子ども理解をめざした体験活動を企画し実施しています。生活・総合領域では、毎年新たな活動をおこなっています。5月頃から学生たちは活動の検討を始め、子どもたちが楽しみながら参加できるテーマや内容について話し合いを重ねてきました。その結果、令和7年度は、小学生の子どもたちや幼稚園児を対象に「とべとべ! はっぱヒコーキ対決!」という講座を実施しました。秋の落ち葉スタンプを使って自分だけのオリジナルの飛行機を作り、どこまで飛ぶかを競う活動です。子どもたちがそれぞれ好きな色や形を表現できるよう、大学内にある木の落ち葉を大きさや種類を変えて100枚ほど用意し、絵具も色を混ぜ合わせながら使えるようにしました。当日、子どもたちは真剣にヒコーキづくりに取り組み、外で飛行機を飛ばす場面では歓声もあがりました。子どもたちと実際に関わる中で、学生たちも貴重な経験を得ることができました。



小学校教育コース 特別支援教育領域

2026年度の小学校コース特別支援教育領域は、担当教員3名（坂井聡、小方朋子、小西行彦）に加え、教職大学院の恵羅先生、加藤先生がゼミを担当しています。今年度は、4年生21名、3年生20名、2年生17名の学生でスタートしました。

本領域では、特別な教育的支援を必要とする児童・生徒を支援するための、特別支援学校教諭一種免許状および小学校教諭一種免許状の取得を目的としています。卒業生は、特別支援学校をはじめ、小・中学校の通常の学級や特別支援学級など、さまざまな教育現場で活躍しています。近年では、小・中学校における通級指導教室の設置も増加しており、通常の学級に在籍する発達障害のある子どもたちへの適切な支援や指導の重要性が高まっています。こうした社会的ニーズに応えるため、本領域では、教育・医学・心理学の連携を重視し、理論に裏づけられた実践的な指導力を育成できるよう、カリキュラムを工夫しています。

また、学生たちは大学での学びに加え、ボランティア活動への参加や、障害のある子どもたちとの交流活動の企画・運営などにも積極的に取り組んでいます。さらに、香川大学バリアフリー支援室では、香川大学に在籍する障害のある学生を支援するピアサポーターとして活動しています。

長年にわたり続けられてきた学生ボランティア活動「ちびっこ教室」は、地域に根差した活動として学外からも高い評価を受けてきましたが、昨年度末をもって54年の歴史に幕を閉じました。これまでご指導くださった小野先生、高木先生をはじめ、「ちびっこ教室」に参加してくださった多くの子どもたち、そして保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。

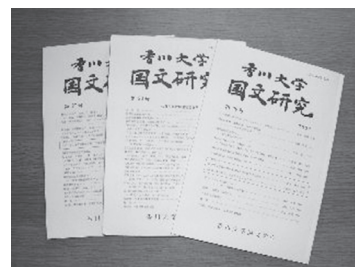


教科教育分野 国語領域

国語研究室では、日本古典文学・日本近代文学・日本語学・中国古典文学・書道・国語科教育の各分野を専門とする熱心な教員とともに、学生が日々研鑽を積んでいます。各分野が緊密に連携しあったカリキュラムによって、小・中・高の「国語」の教員免許の他、高等学校「書道」の免許が取得できます。

今年度は、教員6名、学生30名（二年生8名、三年生12名、四年生10名）の合わせて36名によって運営されています。平素の授業のほかに、歓迎会・夏合宿・送別会など、多彩な研究室行事が行われ、研究室内の親睦を深めています。特に学生は教職に必要な集団行動や礼儀についても学び、人間性の涵養に取り組めます。大学祭での「和風茶屋」の出店やオープンキャンパスでの研究室紹介、「未来からの留学生」での百人一首大会などは、学生が主体となった運営が行われています。また、各附属学校の国語科教員には本研究室の卒業生が多く、研究室と附属校との連携は極めて緊密であり、学生は教育実習等で充実した指導を受けることが可能になっています。

のみならず、「香川大学国文学会」という学会を組織し、上記の各専門分野に関する研究が深められていることが特色です。昭和28年卒以来の多くの卒業生と研究室の歴任教員を会員とする組織で、12月には研究発表大会を行って会員間の交流をはかっています。また、毎年9月には研究誌『香川大学国文研究』を発刊しており、今年で51号に至りました。質量ともに全国的にもトップレベルの研究誌であると自負しています。平成23年、本学会の元会長である佐藤恒雄名誉教授が、学界最高峰の「日本学士院賞」を受賞されたことは、特筆すべき出来事でした。本学会を通して積み重ねられた研究活動と人間的な交流は、国語研究室の誇るべき財産であり、日々の研鑽を支えるものです。



教科教育分野 社会領域

今年度は20名と多くの2年生が社会領域に入りました。これに3年生20名、4年生22名が加わり、現在62名の学生が所属しています。学生たちはよりよい社会の形成者の育成に寄与できる社会科教育の実践者となることを目標にして学んでいます。

領域で最も主要な恒例行事となっている卒業構想発表会、卒業中間発表会、卒論発表会などの活動もほとんどの学生が元気に参加しました。社会系免許は小学校と中学校が社会科、高等学校が地理歴史科と公民科で分かれていることもあり、免許取得に際しては、他教科よりも多くの授業単位を履修することが必要となりますが、学生たちは工夫しながら免許取得に向けて努力しています。



教員に関しましては、7名で社会系教科の各免許状を発行するのに必要な広い専門領域をカバーしています。その内訳は、鈴木正行（社会科教育学）、平篤志（地理学）、守田逸人（日本史学）、唐澤晃一（西洋史学）、杉本志帆（法学・政治学）、河合史子（社会学・経済学）、三宅岳史（哲学・倫理学）です。このうち平先生は2025年10月より2期目の教育学部長に就いています。

また対外的な取り組みとしては、高校生と保護者を対象とした「オープンキャンパス」（8月）、幼児と小学生を対象とした「未来からの留学生」（10月）を開催することができました。

25年度の「未来からの留学生」では、学生たちが「むかし遊び」を催しました。今となっては見かけることの少なくなった輪投げ・折り紙・あやとり・駒・けん玉等の遊びを幼児・子どもたち来場者を楽しんでもらいました。なかでも駒やけん玉は学生自身が事前に準備練習を行わないと遊び方を示すことができないので、来場者だけではなく学生自身も楽しむイベントになりました。



社会領域では教員が学生に寄り添った専門性の高い授業を行うとともに、上記のような様々な行事を通じて力量豊かな、そして人間味溢れる社会科教師になるために必要となる礎の育成に努めています。



教科教育分野 数学領域

数学領域では、専門的な数学の深い素養を持ちつつ豊かな実践的力量を持った数学教員の養成を目指しています。代数、幾何、解析を中心とした専門数学を2年次から学び始め、3年次でそれらを深めるとともに確率・統計やコンピュータなど現代的、実用的な分野も学びます。これらの高い知見を生かした算数・数学の教育法、教育論を3年次から学び、教育実習により教育現場でその実践を経験します。3年次後半からは各自の興味関心に基づき、分野を絞って卒業研究に向けた学習を進めます。4年次には卒業研究に取り組むと同時に、進路選択という大きな課題と向き合うことになります。そのような節目を経て、学生は、数学を1つの柱として教職への力量を形成していきます。

昨年度1年間は特命教授として内藤浩忠名誉教授に授業等も担当頂き大変助けられました。領域教員の活動として、内藤名誉教授が30年以上前に立ち上げた「香川セミナー（数学）」を3回開催し、数学の様々な分野の最先端の研究者を招き講演してもらいました。また教科教育の教員が主宰して算数・数学教育の研究会「授業デザイン研究会」を数年前から学内で定期的に開催しており、県内外の小・中・高の教員が多数参加して6回実施しました。

数学領域としての学生の活動は、2年次に「未来からの留学生」で提供する3種の講座、また3年次にオープンキャンパスの領域プレゼンテーションがあり、企画から実施まで全員で協力しておこなっています。上の学年からノウハウを引き継ぎつつ自分達のアイデアも盛り込んで実施しており、参加児童・生徒たちの楽しそうな笑顔に触れたいへん有意義な機会となりました。

令和7年度の数学領域修士生は18名、全員が無事に進路を確定させることができました。卒業後の進路内訳は学校教員が11名（小学校6、中学校4、高校1）、公務員2名、一般企業への就職5名でした。令和7年度も教職に就く者を多く輩出できたことも嬉しく思います。

教科教育分野 理科領域

理科領域では、自然科学の基本的な内容についての確かな理解に基づいて、わかりやすくおもしろい理科の授業をつくることのできる教員の養成を目指しています。そのため学生たちは、物理学・化学・生物学・地学について、基礎的な内容を理解し、それらをわかりやすく教える手法・技能を学びます。また、理科教育の目的や目標、授業づくりの考え方などについても実践的に学びます。

理科領域の教員たちは、限られた時間の中で効果的に授業が実施できるよう、連携を密にして共同して授業をすすめています。特に、学生たちが実験・観察教材を身につけようとする授業（理科内容構成）や単元の指導案の作成を試みる授業（理科授業研究Ⅱ）においては、自然科学各分野の専門教員と理科教育学の教員が、それぞれの専門性を活かし・補い合って指導をしています。理科領域では、地域の子どもたちに科学のおもしろさを体験してもらう機会を重要視して、いくつかの行事を企画して実施しています。学生たちが主体になって、科学体験活動を企画・立案し、準備し、協力し合って実施します。それらを通して学生たちは、主体性やリーダーシップ、協調性などを伸ばしていきます。そして4年次の卒業研究では、物理学・化学・生物学・地学・理科教育学に関する特定のテーマについて、専門的研究を行ない、学生たちは専門性を更に深めていきます。



理科内容構成（演示実験の様子）



2025年の
「未来からの留学生」の様子



教科教育分野 音楽領域

香川大学教育学部音楽領域は、小・中学校の音楽科教育についての幅広い知識を習得しつつ、学生それぞれが専攻する分野の深い研究と実技的な成長を目指す学びの場です。令和8年度の在籍学生は13名で、教員は声楽1名、器楽（ピアノ）1名、そして令和8年度新たに着任した音楽科教育の長山弘先生、器楽（木管楽器）では、引き続き青山夕夏先生に指導をお願いし、領域全体の教育をさらに充実させています。

学生たちの実践的な技能向上は、学習発表会や「キャンパス・ランチ・カフェ」（年4回程度開催）といった学内での発表機会を活かしながら、継続的に行われています。令和7年度より、アンサンブル活動をはじめとした実践的な活動において、効率的な練習で演奏表現の質を高めることを重点目標として掲げています。その成果は学内外における各種コンサートの開催を通じて披露しています。

地域社会への音楽文化の発信と社会貢献活動は、領域の大切な取り組みです。令和7年度から始動した「地域貢献・地域活性化プロジェクト」の一環として、香川大学と高松赤十字病院の連携により、音楽領域の学生と教員による高松赤十字病院ロビーコンサート「秋の夜空を想うコンサート」を開催しました。令和8年度も第2弾の「夏の夕暮れの音楽会—あなたに贈る7つの魔法—」を6月25日に開催し、会場から温かい拍手をいただきました。このプロジェクトは、医療施設を利用される皆様に音楽による安らぎと交流の場を提供するとともに、演奏を通じた社会貢献の実践経験を学生たちに促す、貴重な学びの機会となっています。

毎年恒例となった「七夕コンサート」では、視覚支援学校の児童・生徒をお迎えし、音楽による心の交流を深めています。また、高松市美術館では、特別展にあわせた美術館コンサートを令和7年度は8月と11月に実施しました。令和8年度も8月に開催予定です。11月には定期演奏会を開催し、これまでの学びの成果を発表いたします。

このように、学内外における多彩な音楽活動を通じて、学生たちは実社会との関わりを実感し、将来教育者として地域に貢献できる力を養っています。こうした教育活動は、本学の卒業生・修了生をはじめ、多くのOB・OGの皆様のご支援によって支えられています。

今後も、教育内容の一層の充実と、学生の学びの環境の整備に努めてまいります。温かいご理解とご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。



高松赤十字病院ロビーコンサート



定期演奏会



教科教育分野 美術領域

美術領域では、子どもの創造力が伸び育つ土壌や育ちのプロセスを、幅広く柔軟な視点から捉えることのできる教員養成のために「造形芸術とその教育に関する諸分野の基礎的な能力・知識を習得する」、「各自に適した表現分野を極め、自分自身を語り表す力を付ける」、「自らの研究と制作を通して教育的視点から造形表現の意味を見出す」などを目標としています。

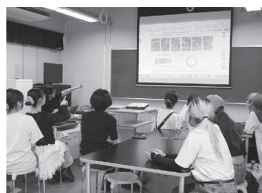
美術領域に所属する学生は、美術科教育全般について学ぶとともに、それぞれが選択した美術専門領域で担当教員の指導、支援の元、作品制作や美術教育学を研究しています。

専門領域としては、理論的な立場から探究する美術教育、美術理論、美術史、そして、作品制作の立場から探究する絵画、デザイン、工芸、彫刻などがあります。

本年度は教科領域科目として美術教育を吉川暢子教員、デザイン分野を尹智博教員、絵画分野を古草敦史教員、彫刻分野を長谷川隆子教員、工芸分野を創造工学部の柴田悠基教員、また、教科教育科目の図画工作教育法を非常勤講師の村上尚徳教員が担当しています。

現在、美術領域には総合選抜Ⅰで入学した1年生を含めて17名が在籍し、「未来からの留学生」への企画参加や、毎年の「卒業制作展」の開催、また、学外での様々な芸術活動への積極的な参加、学部内外行事に関連する各種ポスター制作など主体的活動を行っています。

卒業生は、教職やデザイン関連企業などに就き活躍しています。



「美術科授業研究Ⅰ」授業風景



「構成ⅠA」授業風景



高松市美術館市民ギャラリーでの2025年度卒業制作展と作品（油彩画）制作の様子



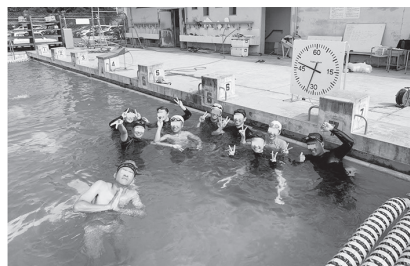
教科教育分野 保健体育領域

保健体育領域は、「体育科教育学」（担当：米村耕平，上野耕平，大西美輪）、「運動学」（担当：石川雄一）、「体育学」（担当：上野耕平）、「学校保健」（担当：宮本賢作）の4つの研究分野から構成されています。各分野とも実践に繋がる理論について、演習を中心として学習していきます。また、実技については、陸上、水泳、球技、武道、スキー、身体表現など専門的な実技能力の習得とともに、その運動の指導技術についても学ぶことができます。特に、体育教師の指導力の育成には力を入れており、2年次から4年次まで、大学生を生徒役に見立てて実際に授業を行う「模擬授業」を中心とした授業が展開されています。ここでは、望ましい教師の行動や教材づくりの方法を学ぶと共に、体育授業を行っていく上で必要な授業をマネジメントしていく力、自らの体育授業を評価する力、そして体育授業を改善し創造していく力など、授業実践に役立つ多くの能力を身につけることができます。

現在、保健体育領域を専攻している学生は、2年生14名、3年生12名、4年生17名の合計43名、教育学部の領域の中でも大所帯の研究室となっています。学生が中心となって学習会やスポーツ大会を行ったり、附属学校との積極的な関わり合いを通して小学生や中学生に対する運動指導の補助を行ったり、学生自らが主体となって将来に向けた学びを活発に展開しています。保健体育領域は学生、大学教員、附属学校教員、そして卒業生との連携も密であり、活気に満ちた領域です。



身体表現Ⅰ（マット運動）の一コマ



基礎運動Ⅱ（遠泳準備）の一コマ

教科教育分野 技術領域

技術領域は、科学技術の成果を基盤とする応用科学及び生活科学に関する技術科教育、材料加工（金属加工、木材加工）、エネルギー変換（機械、電気）、生物育成、情報などの分野を主要な教育・研究課題としています。これらの研究を通じて、現代科学技術の一端を習得し、新たな科学技術にも柔軟に対応できる基礎的・基本的な知識及び技術の涵養することに重点を置いた教育を実践しています。また、高等学校教諭一種免許状「工業」、「情報」の取得も可能であり、これに伴い工業科・情報科関連分野の授業を充実させ、理論のみでなく実践的・体験的な学習活動の指導ができるカリキュラムが用意されています。学生は、4年生5名、3年生3名、2年生5名の計13名が在籍しています。学部主担当（小学校・中学校）教員は、宮崎英一（技術科教育法・機械・金属・木材加工）、黒田勉（技術科教育法・情報）、山田貴志（工業科教育法・電気）の3名、副担当教員は松下幸司（情報）の1名が配属されています。技術領域では、未来からの留学生での展示や親子ものづくり体験講座の企画・実施、学校現場への訪問や現職の技術科教員との学習会を通じた学生へのキャリア支援、学会発表などの活動を広く精力的に行っています。令和7年度の卒業生は、中学校技術科教員、高等学校工業科教員、さらには一般企業など、多様な分野で活躍しています。



教科教育分野 家庭領域

家庭領域では、衣・食・住の生活をはじめ、家族、保育、消費生活、環境など、生活に関わる多様な分野について、理論と実践の両面から学んでいます。また、現代社会における様々な生活課題の解決に向けて主体的に考え、行動できる生活者の育成とともに、中学校・高等学校の家庭科教員および小学校教員の養成を目指しています。

領域の主な行事には、卒業論文の中間発表会・最終発表会、特別講義、日帰り研修、教育学部の行事「未来からの留学生」、かがわけん科学体験フェスティバルへの出展などがあります。昨年度の卒業論文では、住生活における防災教育や、日米の教科書比較研究など、家庭科教育に関する多様なテーマが取り上げられました。昨年度は、卒業生全員が教職に就くことができ、後輩にとっても大きな励みとなっています。

また、10月に実施した「未来からの留学生」では、2年生がゆび編み教室を企画し、小学生が自分の手を道具にしてものづくりを楽しむ体験活動を行いました。学生にとっても、子どもへの関わり方や理解を深める貴重な機会となりました。12月の日帰り研修では、ホテルJRクレメントにおいてテーブルマナー講座を受講し、領域の学生と教員が交流を深めながら、洋食のマナーについて学びました。

昨年度の10月から、新たに土海一美先生が家庭領域に着任しました。現在の指導教員は、時岡晴美（家族関係学・住居学）、大西えい子（家庭科教育）、土海一美（食物学）、一色玲子（家庭科教育・被服学）の4名です。



教科教育分野 英語領域

英語領域では、(1)英語教師を目指すものとして将来英語を教える上で必須の知識・教養および技能を身につけること、(2)大学で英語を専攻したものにふさわしい英語力を身につけて卒業することを目的に、英語科教育、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の5分野で構成されるカリキュラムに則って講義、演習等を提供しています。

英語領域の学生が中心となって行う活動には、オープンキャンパスでの英語領域紹介、秋の「未来からの留学生」で県下の小学生を対象にオール・イングリッシュで活動を行うレッスンを開講することと、4月、12月、2月の研究室親睦会等があります。また、タイ・台湾・米国・ニュージーランドの協定校の大学、あるいは語学学校へ留学・研修に向かう学生が毎年数名います。

英語教育講座教員の学部専門授業科目の担当は次の通りです。

永尾 智：英語学概論，英語学演習，英語史，英語演習Ⅰ

中住幸治：英語科教育法，英語科教育論，小学校英語教育法，英文法演習，英語演習Ⅳ

ポール・バテン：英語科授業研究Ⅰ・Ⅱ，小学校英語，英作文Ⅰ・Ⅱ，英語演習Ⅱ

また、「英語科内容構成」という学部専門授業科目と共通教育英語科目を全員が担当しています。さらに教職大学院及び大学院創発科学研究科での授業担当や指導主任等にも携わっています。講座外からは、例年通り大学教育基盤センターの長井克己先生に「英語音声学演習」を、Gerardine McCrohan 先生に「英会話」「異文化間コミュニケーション」「異文化理解」をご担当いただいています。

令和8年度の学生数は、2年生14名（うち小学校教育コース学生8名）、3年生11名（うち小学校教育コース学生7名）、4年生9名（うち小学校教育コース学生6名）となっております。

令和7年度卒業生の就職状況は、卒業生13名のうち、小学校教員4名、中学校教員3名、一般企業3名、大学院進学1名、その他2名でした。

課程・コース一覧

【1～4年生】

課程	コース	分野	領域
学校教育教員 養成課程	幼児教育コース		
	小学校教育コース	教育課題探究分野	教育領域, 心理領域, 生活・総合領域
		特別支援教育分野	特別支援教育領域
		教科教育分野	国語領域, 社会領域, 数学領域, 理科領域, 音楽領域, 美術領域, 保健体育領域, 技術領域, 家庭領域, 英語領域
	中学校教育コース		国語領域, 社会領域, 数学領域, 理科領域, 音楽領域, 美術領域, 保健体育領域, 技術領域, 家庭領域, 英語領域

※各領域への所属は, 2年次からです。

【教育学部附属教職支援開発センターの紹介】

附属教職支援開発センターは、教職を目指す学生の実践的指導力の向上と支援体制の充実、及び、現職教員の更なる実践的指導力向上のための研修に寄与することを目的としています。学部や教職大学院、附属学校園、香川県教育委員会等の地域社会の教育関係諸機関と連携・協働して、実地教育、学生・現職教員への支援、教育開発/ICT 活用及び特別支援教育の推進的役割を果たすことに取り組んでいます。具体的には5つの部門を設け、それぞれ次のような活動を推進しています。

なお、本センターは、センター長、専任教員（2名）と客員教員（3名）、兼任教員、事務系職員より構成されており、これらのメンバーが一体となって各部門の運営にあたっています。

（1）実施教育推進部門

実地教育推進部門では、実地教育委員会との共同体制により、4か年を見通した実地教育の企画・推進（必須科目①～④）を行っています。

- ① 1年次：【学校理解】教職概論（大学入門ゼミ）
- ② 2年次：【子ども理解】教育実践プレ演習
- ③ 3年次：【授業理解】教育実践演習（教育実習事前・事後指導）
- ④ 4年次：【教職理解】保育・教職実践演習

なお、3・4年次の教育実習（主免・基礎免・副免）、2年次の介護実践演習、保育実習及びボランティア活動については、実地教育委員会を中心に行います。

（2）教職支援推進部門

教職支援推進部門では、学生支援専門委員会との共同体制により、学生のニーズに応える教職支援のための活動の企画・推進を行っています。

- ① 教員就職率の向上に資する支援活動
 - ・ 教員採用に関する情報提供
 - ・ 各種ガイダンスやセミナー、説明会等の開催、教職自主サークルへの支援など
- ② 教職志望学生及び現職教員への教育相談活動の実施
 - ・ 進路に関する相談、教職に関わる悩み等の相談 など
- ③ 教育実践集中講座の開催

（3）教員研修推進部門

教員研修推進部門では、現職教員への研修支援活動を行っています。

- ① 指導力向上のための公開講演会等の開催
- ② 学内の現職教員研究各種プロジェクトへの協力 など

（4）教育開発/ICT 推進部門

教育開発/ICT 推進部門では、学部・附属共同研究機構をはじめ学部・附属学校園との共同体制により、教育に関する研究開発ならびに ICT 機器の教育における活用について企画・推進を行っています。

- ① 学部・附属による共同研究に関わること
- ② ICT 機器の活用支援
- ③ 教育関係資料（教科書を含む）及び各種機器の整備・貸出
- ④ 『香川大学教育実践総合研究』の編集・刊行 など

（５）特別支援教育推進部門

特別支援教育推進部門では、学部・附属共同研究機構をはじめ、地域の教育関係諸機関等との共同体制により、特別支援教育について企画・推進を行っています。

- ①教育学研究科、教育学部における特別支援教育に関する教育活動への協力
- ②特別支援教室（すばる）の運営、業務の遂行
- ③香川県教育委員会、高松市教育委員会、附属学校園、関係諸機関との連携

＜センターの利用に当たって＞

○教材・資料の収集・管理・共同利用

主に教育学部や附属学校園の教員、大学院生や大学生による教育や研究利用のために、①研究資料（他大学からの研究紀要や香川県教育委員会等の関連出版物）、教材（教科書及び指導書）等の収集・管理、②教材、機器等の共同利用のための物品などの整備、③ICT 機器等の有効利用のための整備、④学習コンテンツの開発・収集、⑤情報メディア・ICT 機器の活用に向けた教員養成・研修の支援、⑥デジタル教科書の活用のための整備等を行っています。

○研究活動の報告と広報活動

研究活動の報告については、『香川大学教育実践総合研究』を年２回編集発行しています（９月、３月）。また「教育実践集中講座資料集」（センター客員教員が主に学生向けに実施する講座の資料をまとめたもの）を発行しています（３月）。

広報活動としては、「センターニュース」を年１回発行するとともに（５月）、最新情報については、随時ホームページに更新掲載しています。なお、センターのホームページ（<https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/>）にて「センターニュース」のバックナンバーの閲覧も可能です。

○学部、大学院教育の担当

センター専任教員は学部及び大学院の授業を担当しています。

○教育委員会、学校等の地域の諸機関への協力

地域に開かれた機関として、県や市町の教育委員会からの講演等の依頼や、地域の学校からの現職教育等への依頼を引き受けるとともに、香川県教育委員会の教員研修や香川県教育センター及び高松市総合教育センターの研究事業等に協力しています。



今後も引き続き、教員養成、教員研修、地域社会への貢献に努めてまいります。
気軽にセンターを訪問し、ご活用いただければ幸いです。

【教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）の紹介】

教職大学院の令和7年度の取り組みと令和8年度の状況をご紹介します。

＜令和7年度の取り組み＞

■教職実践研究交流会開催！10周年記念事業も兼ねて実施

令和7年度は、本学教職大学院が平成28年4月に開設してから10年目を迎えました。これを記念し、例年8月初旬に開催している教職実践研究交流会を、10周年記念事業も兼ねて令和7年8月2日に実施しました。なお、令和7年度末までに162名の修了生が旅立ち、現在では様々な校種や立場で活躍しています。

当日は、院生の中間発表や修了生も交えた交流会、さらに、広島県内の個別最適な学び（単元内自由進度学習）に関する講演を通して学びを深めました。修了生同士の縦横のつながりや絆が大きくひろがっています。

また、午後の記念事業の一環として、教職大学院修了後も継続して研究実践に取り組まれている「学び続ける教員」の優秀者表彰を行いました。この表彰は、修了後3年以上にわたり、大学院での学修を生かし、担当教員と連絡を取りながら研究実践を継続し、論文執筆や学会発表を通じて広く発信している修了生を「学び続ける教員」として表彰するものです。今回は、修了後も学び続け、様々な研究会や学会等での発表を通して教育現場や社会へ成果を発信し、実践研究を深化させている4名の修了生を表彰しました。詳細は、教職大学院HP掲載の紙飛行機通信28号をご参照ください。

https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~kyoshoku/news/ku_newsletter_28.pdf

■令和7年度日本教職大学院協会研究大会で本教職大学院修了生が実践事例を発表！

令和7年12月13日（土）14日（日）に日本教職大学院協会研究大会が秋田大学で開催されました。そのなかで、14日の午後に開催されたポスターセッション（オンライン）において、令和6年度修了生の佐藤南先生が教職大学院で学んだことを実践の中で生かしながら取り組んだ事例を発表しました。様々な質問や感想が寄せられて、佐藤先生の取組に対する関心の高さが伺えました。

■令和7年度香川の教育づくり発表会で令和6年度修了生が実践での取組を発表！

令和7年12月25日（木）に綾歌総合文化会館アイレックスにて「香川の教育づくり発表会」が開催されました。令和6年度の修了生に関する修了後のフォローアップ指導の一環として、この1年間の研究成果をポスター発表の形式で行いました。

発表後の質疑応答も活発に行われ、「どの発表も自らと結び付けて聞くことができました。」「学校現場の課題解決につながる発表だった。」などのご意見をいただくことができました。

■「令和7年度 教職実践研究フォーラム」を開催！

大学院生の学びの集大成を発表する「令和7年度 教職実践研究フォーラム」が令和8年2月28日（土）に開催されました。多彩なテーマの下、3会場に分かれて現職教員院生9名、学部卒院生4名、計13名の発表がありました。当日は、全体会の411教室がほぼ満席になるほどの参加者で充実したフォーラムとなりました。



活発な質疑応答が行われ、参加者からは「フォーラムに参加すると、いろいろと現場での課題について考えさせられることが多い。」「特別な配慮が必要な子どもたちが多くなっている現状で、自分の立場でできることは何かを考える機会となりました。」といった声をいただきました。また、午後には、これまでの修了生を対象に「教職大学院修了生研究交流会」を開催しました。様々な問題と睡眠に関する講演や修了生同士の交流の時間を通して有意義な学びが深まりました。多くの方に参加いただき、修了後もつながりが深まっていることを実感しました。



☆令和7年度修了生の教職実践研究報告書（研究課題一覧）はコチラから

https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/graduate/kenkyukadai/kenkyu_r07.html

■令和7年度から、院生自身が「履修カルテ」を用いて自己点検評価を実施！

これまで、香川県の教員等人材育成方針や教員育成指標（教員が身に付けるべき資質・能力等を整理したもの）を参考に、教職大学院生が自らの学びの成果や状況を省察する「履修カルテ」を作成してきました。これは、大学院の授業改善・カリキュラム改善に生かしたいという基本的な考えと学びの主人公である院生自身の学修を自己調整し自らを高めるための支援ツール

として生かしてほしいという願いを基盤に継続的な取組の中で、全教員の総力のもとに開発されたものです。院生自らがこの1年間で高めたい力量形成課題を設定し、年度末までにどれだけ高めることができたかを自己評価するツールとなっています。令和7年度からは、院生本人がこの「履修カルテ」を活用して自己点検評価を実施するとともに、教員も継続して授業改善・カリキュラム改善に生かしていくことに取り組んでできました。自己評価結果はチャート表示されるようになっていきます。



＜令和8年度の状況＞

■令和8年度の新入生！

4月7日（火）に香川県立アリーナで入学式が盛大に執り行われました。令和8年度は21名の新入生が入学しました。学校力開発コース2名、授業力開発コース13名、特別支援力開発コース6名です。現職教員院生が11名、学部卒院生が10名です。入学式に先だって、4月2日に入学ガイダンスを行い、新年度の学生生活がスタートしました。

教職大学院も11年目の新たなスタートです。ご理解ご協力の程、宜しくお願い致します。

■令和8年度の多様な研修の場となるラボを拡充！

令和8年度独立行政法人教職員支援機構地域センター（NITS）事業の一環として、主に土曜日の午後に、ICTラボ、保健室ラボ、授業づくりラボを実施予定です。

また、学内の予算事業として、特別支援教育ラボ（特支ラボ）を今年度より開催します。第1回目は令和8年5月9日（土）午後に実施し、50名を超える参加者を得て、有意義な学びの時間となりました。さらに、上廣倫理財団の支援事業として、四国道徳ラボも5月9日（土）に開催し、50名を超える参加者で賑わいました。これからも学校現場での課題やニーズを大切にしながら取り組んでいきます。HP等でも情報発信をしていきます。

■令和8年度から、新規授業「学級担任に求められる健康課題への理解と対応」を実施！

多様な子どもたちの今日的な健康課題について、健康教育、学校安全、特別支援教育等の多様な視点から理解を深めるとともに、具体的な健康課題（睡眠の問題、SNS依存、ゲーム依存等）にどのように対応するのかについて、新規授業「学級担任に求められる健康課題への理解と対応」において考察を深めてまいります。

■令和8年度の主な行事予定

- ・8月に教職実践研究交流会（院生の間発表等）を予定
- ・12月に日本教職大学院協会のポスター発表で修了生が発表予定
- ・12月に「香川の教育づくり発表会」で修了生が実践の取組を発表予定
- ・2月に教職実践研究フォーラムで院生が研究の取組を発表予定
- ・教職大学院説明会を実施（5月、9月、12月、対面並びにオンラインで）

◇大学院生のメッセージ

教職大学院での実感を伴う深い学び

香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 相澤 咲希

私は現在、香川大学教職大学院に在籍し、将来学校現場で勤務する前に授業をつくる力・実践する力をより高めたいという思いで学んでいます。中でも、週に一度の実習を通して子どもたちに継続的に関わることができる点に魅力を感じ、進学を決めました。

学部での学びを回顧すると、初めは大学の授業で学んだ知識が学校でどのように活かされるのか、十分に実感をもてていない部分がありました。しかし、教育実習を経験し、授業を見る際の視点が変化したと感じています。

そして、今年度からの教職大学院での実習では、ますます学校現場に近い多様な学びがあります。授業で理論を学ぶ中で、「あの時の場面はこういう意味があったのか」と過去の経験を捉え直すことができ、点として存在していた経験が線としてつながっていく感覚があります。また、研究授業後の討議会などでも、これまでより内容を深く理解するとともに自分なりの考えを持って協議に参加できるようになってきました。さらに、教職大学院で学修した成果を意識して実習に臨むことで、教育実習の頃とは異なる確かな充実感を得ています。例えば、授業中の教師の行動に対して「この働きかけにはどのようなねらいがあるのか」「自分ならどのように対応するか」といった視点で見ることができるようになり、学びの質が深まっていると痛感しています。まさに理論と実践の往還です。

また、大学院では同じ目標をもつ仲間と出会い、互いに刺激を受けながら学修できています。特に、院生室という空間があり、講義の合間や空き時間に自然と集まり、授業で疑問に思ったことや分からなかったことを共有しています。加えて、日々の講義では現職の先生方から、学校現場で実際にあった対応事例や具体的な実践について、そのポイントを聞くことができます。院生室でも気軽に会話ができて、「普段の授業はいつ教材研究をしているのか」などの素朴な疑問を直接尋ねることができる点も、教職大学院ならではの大きな魅力です。こうした貴重な関わりを通して、現場のリアルな姿に触れながら実感を伴った学びを深めています。このように教職大学院には、日常的に気軽に会話ができて仲間と一緒に考えることができる環境があり、自分の考えを深める大切な支えになっています。

教職大学院での学びは、これまでの経験を意味づけ、これからの実践へとつなげていく大切な時間であると感じています。ここで得た学びを糧に、子ども一人ひとりに寄り添い、よりよい授業をつくることのできる教員を目指していきたいと思います。

【学部だより】

◇令和8年度行事予定

令和8年(2026年)

4月1日(水)	第1学期開始, 第1学期及び1Q履修登録期間(2年生以上)～4月9日13時まで
4月3日(金)	新入生ガイダンス(全学・学部別), 第1学期及び1Q履修登録開始(1年生)
4月6日(月)	新入生ガイダンス(全学), 2年生ガイダンス(コース・領域別) 3・4年生ガイダンス, 特別コースガイダンス(2年生以上) 編入学生・転学部生ガイダンス
4月7日(火)	入学式
4月8日(水)	新入生修学相談, 新入生コンピュータガイダンス(学部)
4月9日(木)	新入生修学相談
4月10日(金)	新入生修学相談, 新入生定期健康診断, 履修登録予備日, 新入生歓迎祭
4月13日(月)	授業開始(全学共通科目, 学部開設科目)
4月20日(月)	第1学期及び1Q履修登録取消申請期間～4月24日まで
4月29日(水)	水曜日の授業日
5月28日(木)	2Q履修登録開始～6月2日13時まで
6月3日(水)	2Q履修登録予備日
6月18日(木)	2Q履修登録取消申請期間～6月24日まで
7月20日(月)	月曜日の授業実施日
7月30日(木)	第1学期定期試験期間(全学共通科目, 教育学部)～8月5日まで
8月6日(木)	授業・定期試験予備週間～8月12日まで
8月6日(木)	夏季休業開始
9月15日(火)	第2学期及び3Q履修登録期間～9月24日13時まで
9月25日(金)	履修登録予備日
9月30日(水)	夏季休業終了・第1学期終了
10月1日(木)	第2学期開始, 大学記念日
10月2日(金)	授業開始(全学共通科目, 学部開設科目)
10月8日(木)	第2学期及び3Q履修登録取消申請期間～10月15日まで
10月14日(水)	月曜日の振替授業日
10月30日(金)	大学祭(前夜祭)(臨時休業)
10月31日(土)	大学祭(本祭)～11月1日まで
11月2日(月)	大学祭撤収日(臨時休業)
11月18日(水)	4Q履修登録期間～11月24日13時まで
11月23日(月)	月曜日の振替授業日
11月25日(水)	4Q履修登録予備日
12月10日(木)	4Q履修登録取消申請期間～12月16日まで
12月25日(金)	冬季休業開始

令和9年(2027年)

1月7日(木)	冬季休業終了
1月14日(木)	月曜日の振替授業日
1月15日(金)	臨時休業日
1月16日(土)	大学入学共通テスト～1月17日まで
2月8日(月)	第2学期定期試験期間(全学共通科目, 教育学部)～2月15日まで
2月15日(月)	木曜日の振替授業日、振替試験日
2月16日(火)	授業・定期試験予備週間～2月22日まで
2月25日(木)	入学者選抜試験(前期)「教科・科目に係る個別テスト」
3月11日(木)	春季休業開始
3月12日(金)	入学者選抜試験(後期)「教科・科目に係る個別テスト」
3月24日(水)	卒業式
3月31日(水)	第2学期終了, 春季休業終了

※1Q→第1クォーター, 2Q→第2クォーター, 3Q→第3クォーター, 4Q→第4クォーター

◇令和 8 年度教育実習計画

免許別実習校・年次			週	実 習 期 間	
○	主免小学校	3 年次	4	高松小学校 坂出小学校	令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 29 日 (火) 令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 30 日 (水)
○	基礎免小学校	3 年次	3	高松小学校 坂出小学校	令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 18 日 (金) 令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 18 日 (金)
◎	主免中学校	3 年次	4	高松中学校 坂出中学校	令和 8 年 8 月 26 日 (水) ~ 9 月 18 日 (金) 令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 29 日 (火)
☆	主免特別支援学校	3 年次	3		令和 8 年 5 月 20 日 (水) ~ 5 月 26 日 (火) 令和 8 年 10 月 9 日 (金) ~ 10 月 23 日 (金)
△	主免幼稚園	3 年次	4	附属幼稚園 高松園舎	令和 8 年 8 月 31 日 (月) ~ 9 月 28 日 (月) 令和 8 年 8 月 31 日 (月) ~ 9 月 28 日 (月)
○	副免小学校	4 年次	2	高松小学校 坂出小学校	令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 11 日 (金) 令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 14 日 (月)
◎	副免中学校	4 年次	2	高松中学校 坂出中学校	令和 8 年 8 月 25 日 (火) ~ 9 月 4 日 (金) 令和 8 年 9 月 1 日 (火) ~ 9 月 11 日 (金)
☆	副免特別支援学校	4 年次	2		令和 8 年 9 月 15 日 (火) ~ 10 月 1 日 (木)
△	副免幼稚園	4 年次	2	附属幼稚園 高松園舎	令和 8 年 8 月 31 日 (月) ~ 9 月 11 日 (金) 令和 8 年 8 月 31 日 (月) ~ 9 月 11 日 (金)

○：附属小学校 ◎：附属中学校 ☆：附属特別支援学校 △：附属幼稚園 における実習を示す。

◇令和 8 年度学校インターンシップⅡ（公立学校実習）計画

実習校・年次		週	地区	実 習 期 間
公立小学校	4 年次	2	高松	一宮小学校 令和 8 年 5 月 19 日 (火) ~ 6 月 1 日 (月)
			坂出	希望者なし。
公立中学校	4 年次	1	高松	希望者なし。
			坂出	希望者なし。
香川県立 坂出高等学校	4 年次	2	坂出	希望者なし。
母校実習	4 年次	2	愛媛	松山西中等教育学校 令和 8 年 5 月 18 日 (月) ~ 5 月 29 日 (金)
		2	岡山	新見高等学校 令和 8 年 5 月 25 日 (月) ~ 6 月 5 日 (金)
		2	高松	高松工芸高等学校 令和 8 年 6 月 1 日 (月) ~ 6 月 12 日 (金)
		2	高知	津野町立中央小学校 令和 8 年 6 月 8 日 (月) ~ 6 月 19 日 (金)

◇学校教育教員養成課程の活動紹介

1年次の学び 大学入門ゼミ・教職概論

■郷土の特色を生かした学びの実現を目指して…

～1年次の実地教育『二十四の瞳』と 出会い、感じ、考える学習』～



小豆島産 鯛の唐揚げ



▲令和7年度 小豆島一日研修のひとコマ

教員養成課程1年次の学生は、前期に全学共通科目（必修科目）の「大学入門ゼミ」（初年次教育）を、後期には「教職概論」を必ず履修することになっています。3つのコース（幼児教育コース・小学校教育コース・中学校教育コース）に所属する1年次生を混ぜ、28～29名程度ずつ、6クラス編成で実施しています。これにより、クラス別演習・ペア学級演習など、多様な学習集団の規模を組み合わせ、授業を実施できるよう配慮しています。

特にクラス別演習授業においては、前期「大学入門ゼミ」から後期「教職概論」（学部実地教育科目）まで一貫した“ホームルーム教室”となるよう、講義室調整を行っています。併せて、クラス間連携を図り、初年次の一体感・一貫性を感じさせるため、ホームルーム教室となる講義室を、中庭を取り囲む4・5号館2階にクラス番号順に並ぶよう、集中配置しています。

平成26年度より毎年実施している小豆島での一日研修は、郷土の特色を生かした『二十四の瞳と出会い、感じ、考える学習』として位置づけ、毎年改善実施を行っています。この目的と併せて、初年次ならではの「1年次生同士の仲間づくり」というねらいも込めた研修です。このため、入学直後、できるだけ早期に実施することができるよう苦心し、調整実施しています。令和7年度は、前期授業が始まって約2週間後のゴールデンウィーク前の週末（4月26日（土）・27日（日））に実施しました。コロナ禍を越え、本研修を再開して以降、継続して配慮している集合時の体調確認や手洗い・手指消毒の励行の指導などを行いながらも、「1年次生同士の仲間づくり」のねらいに沿った研修スタイルで本年度も実施することができました。

ただ、過去の本紙記事において紹介したこともある、コロナ前には当たり前のように行っていた小豆島の味覚「流しそうめん」は、現時点においても実施を見合わせざるを得ないことから、コロナ禍以降、弁当を手配し、二十四の瞳映画村で昼食をとる方法

で実施してきました。特に令和7年度は、過去2年間、弁当をお願いしてきた業者と連携を図り、島内にあるめん処食堂をお昼の時間帯に時間借りし、ウォークスルー・バイキング形式で昼食をとりました。

めん処食堂の建物に入り、まず「そうめんバイキング」。純白の素麺だけでなく、レモンやシソ、ひじきなどを練り込んだ5色の色鮮やかな素麺が小さい器に盛られています。続いて「ごはんと佃煮バイキング」ゾーンへ。小豆島特産の醤油と海藻、魚介類で作られた数種類の佃煮を、思い思いに器の中へ。次に特別メニューとして「小豆島産 鯛の唐揚げ」を加えていただきました。この「小豆島産 鯛の唐揚げ」は、小豆島島内の小中学校の給食のメニューにもなっており、食育の観点から、骨抜きをせずに給食でも提供され、児童生徒は魚には骨があることを意識しながら食べているとのこと。小豆島や瀬戸内の味とともに、小豆島の学校現場での食育の取り組みにも触れることのできるバイキングです。一通り取り終えた学生たちはお店の外へ。海の家のようなテーブルや椅子が置かれた屋外で、心地よい潮風に吹かれながら、仲間とともに和気あいあいと、小豆島や瀬戸内の味覚を堪能しました。

その後、貸切バスで移動した二十四の瞳映画村では、「壺井栄文学館」で壺井栄の生涯について知り、小説『二十四の瞳』の生原稿（レプリカ・現物は文学館蔵）などを目にした上で、壺井栄文学館の館長先生よりご講話をいただきました。館長先生は香川大学のご出身で、長く香川県の学校教員として活躍された方です。壺井栄が『二十四の瞳』に込めた教育に対する思いに関するご講話とともに、大学の先輩・学校教育の先輩として、後輩であり学校教員を目指す大学1年次生に、教育の未来を託す熱いエールをいただきました。（なお、ご講話いただいた館長先生は、令和6年度を以て退職されるとのことでしたが、勤務延長となり本年度の研修においてもご講話いただくことができました。ただ、来年の1年次生からはお話を伺うことができないとのこと。残念でなりません。）

このほか訪れた小豆島オリーブ公園を含め、学生たちは研修プログラムを笑顔で楽しみながら、仲間と経験を共にする貴重な時間を、大切に過ごしていたように感じました。



▲令和7年度 小豆島一日研修のひとコマ（続き）

■アカデミック・リテラシー習得の場としての「大学入門ゼミ」

～ 学校理解を深め、教職への思いを高める「教職概論」～

高校から大学への進学において、両者における学び方の差異に大きな戸惑いを感じる学生も少なからずいると思われます。「大学入門ゼミ」は、教育学部だけでなく全学部共通の大学教育カリキュラムであり、香川大学の学生にとって必要なアカデミック・リテラシーを習得する場として位置づけられています。具体的には、4年間の学びの基盤として、{情報整理の方法、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法}の4つの内容について、全学部共通に学んでいます（これらの内容を「共通コンテンツ」と呼んでいます）。それら共通コンテンツについては、授業内で取り扱うだけでなく、それらの授業を通して得た知識・スキルを活用する機会として、「大学入門ゼミ」後半において、学校園に関して自分の探究課題を設定し、文献などをもとに調査した結果をプレゼンにまとめ報告する演習活動「学校園を『探究』しよう」を実施しています。

また「学校園を『探究』しよう」の実施に併せ、1年次後期開講科目「教職概論」ともリンクさせて、1年次生が初めて学校園を訪問し、学習活動・保育活動を参観する機会として、「附属学校園訪問を実施しています。この訪問は、教育実践について関心を持ち、学生一人ひとり、自分が目指す教師像の具体的なイメージを創ることをねらいとしています。コロナ禍においては、児童と学生との交流活動は行わず、自由時間にも遊びの様子を観察する程度でしたが、令和5年度以降は、園児児童生徒の近くで様子を観察したり、会話を交わしたり、関わって遊んだりすることも実現（再開）することができました。

続く後期開講科目「教職概論」では、幼稚園・小学校・中学校と、自分が教師として目指したい学校園種に合わせた選択型の講義・演習内容を一部導入するなど、1年次の実地教育のテーマである「学校理解」の充実に向けた改善を図っています。

■授業支援システム「ロイロノート」と一人一台端末を活用して学ぶ演習プログラム

本学では令和3年度より、一人一台のノートPC・タブレットPCの購入を入学時に求めることとなり、一人一台の端末を活用した授業を行うこととなりました。併せて教育学部においては、令和3年度より、moodle・zoom等とは異なる「授業支援システム『ロイロノート』」を、学生が授業において活用しながら受講することができるよう整備しました。この環境は、[GIGAスクール構想]により全国の国立・公立・私立の小・中・高等学校に整備されているタブレット端末と併せて、授業において活用するために整備されている「授業支援システム」と同様の学習環境です。

教師を目指す上で、現在全国の学校に整備されている授業支援システムを1・2年次のうちに「自らが活用して学ぶ」経験を通して、3・4年次で「授業で活用して指導することができる教員」としてのスキルを高めることを、教員養成における指導に位置付けることが重要だと考えています。

令和3年度より、この授業支援システム「ロイロノート」を、共通コンテンツで得た知識・スキルを活用して取り組む学習活動「学校園を『探究』しよう」（上述）において活用しています。



▲「大学入門ゼミ」
大学での授業の様子

学校園について探究した結果を、ロイロノートのカード上にプレゼンテーションとしてまとめ、成果報告活動を行いました。学生たちは短期間のうちにスキルを獲得し、また分かりづらい操作については仲間同士で教え合う姿も見られました。

教職への憧れを胸に本学教育学部に入学した1年次生たちの思いや願いを支えることのできる、1年次の実地教育における多様な取り組みを、改善を加えながら、引き続き推進していきたいと考えています。



▲「大学入門ゼミ」附属学校園訪問の様子

◇教員の研究活動紹介

研究紹介：子どもの豊かな造形表現を育むために

幼児教育コース 吉川 暢子



小さい頃から絵を描くことが好きで、進路も迷わず美大に進学しました。与えられた課題を楽しく取り組んでいましたが、卒業制作で「自由に描いていいよ」と目の前に大きな真っ白いキャンバス（100号）を前にした際、何を描いて良いのか分からず、手が止まってしまう悩んだ記憶があります。そのきっかけから自分の想像力はどこから生まれるのだろうかという発想のプロセスについて興味を持ち、大学院に進学しました。

その後、現在も継続して行なっている研究のスタートとなったエピソードとの出会いがありました。親子で参加する絵本づくりの造形ワークショップにお手伝いとして参加した時のことです。あるお母さんが「何でそんなものをつくるの？」と子どもに言っている姿を見かけました。すると、言われた子どもの手はピタっととまってしまう、その後は「これでいい？」と親の顔を伺いながらつくるようになっていました。また、子どものつくったものを見て「何それ？」「顔は肌色でぬらないとだめでしょ」などと…

そのような場面を見たきっかけから、子どもの表現は親の造形意識や関わりが大きく影響するのではと考えました。大人は子どものつくったものや描いたものの上手、下手といった見映えに焦点がいてしまい、本来の子どもの学びや成長を考えることは難しいことであると感じました。そこから、学校教育だけでなく幼児期に最も多く接する機会のある保護者の造形的な意識や関わりを変容することが、子どもの想像力や表現を豊かにすることにつながるのではと思ったことが私の研究の根底にあります。

そして、親の子どもの表現理解や造形意識の向上を目指し親子を対象とした造形ワークショップ等をさまざまな場で実施しています。現在、附属幼稚園において作品を展示する従来の作品展ではなく、保護者による子どもの表現を理解する手立てとして、親子が共に造形活動を行う「子どもの世界展」を先生方と共に令和5年より企画・実施しています。今年で4年目の実施になります。

また、私は幼児教育コースに所属していますが、美術講座では美術教育の授業も担当しています。そこでは、Arts-Based Research: ABR（芸術に基づく探究）の一つであるウォーキングメソッドロジーを用いたアートワークショップを企画し、学生たちと男木島や屋島へ行きワークショップを開催しました。

幼児教育コースと美術講座の二つの領域を跨いで、学生たちと共に子どもの造形表現などアートについて考えることは私にとっても楽しい時間です。そして、一人でも多くの子どもたちがつくることや描くことを楽しめるように、生活の中にある素敵ないろなどに気がつく感覚などを育めるように今後も研究や実践を行なっていきたいと思います。

連携教職課程「地域ワークショップデザイン」の授業の一環で、男木島や屋島へ行った様子の動画です。

<https://www.renkeikyoshoku-art.com>



研究紹介：国際人権法が内包する歯がゆさ

社会領域 杉木 志帆



中学校の『公民』の教科書には、世界人権宣言（1948年）が載っています。この宣言では、文化や宗教などの違いを超えて普遍的に（universal）存在すべき人権が謳われています。これを踏まえ、その後9つの主要な人権条約が国連で採択されました。私の専門分野である国際人権法は、こうした普遍的人権条約やヨーロッパ人権条約などの地域的人権条約に共通する考え方について、体系的に理解しようとする分野です。国が人権を保障すべきことは、

各国の憲法規範も定めています。それでも国際人権法が必要とされるのは、困りごとが生じたとき「そんなのはおかしい、不合理だ」と声をあげる根拠になるからです。女性差別撤廃条約や障害者権利条約を契機とした国内法制の整備、そして子どもの権利条約を踏まえたことも基本法の制定は、日本で国際人権法が重要な役割を果たした（一応の）成功例といえます。

けれども、国際人権法の理念が国家主権の壁にぶつかり、有名無実となることもあります。私はこれまで、人権条約の締約国であっても、世界中の人々に人権を保障する義務を負うわけではない、という課題に向き合ってきました。日本に関わることでは、例えば技能実習生（2027年度より育成就労生）が本国で負う費用負担の問題があります。皆さんは、来日準備の費用を技能実習生が支払うことを当然だと思いませんか？日本では、求人を出す企業側が採用コストを負担します。日本が締結する国際労働機関（ILO）181号条約は、求職者からの手数料徴取を原則禁止しているからです。しかし、実習生の本国（送出国）の多くは、この条約を締結していません。実習生が本国で高額な斡旋料や授業料等を負担し借金を抱えることは、来日後に不当な労働環境に陥っても泣き寝入りし、あるいは高給を語る求人に惹かれて失踪する原因となりかねません。また、実習生による費用負担は、日本企業が負う採用コストの軽減に繋がります。国内外のダブルスタンダードを緩和するには、日本とフィリピンのように受入国（日本）と送出国との間で国際協力を進める必要があります。しかし、そうしないからといって、国際人権法に違反するとはいえないところに、歯がゆさがあります。

こうした歯がゆさは、国際人権法の実施——その内容が実現するよう取り組むこと——にもみられます。人権条約の締約国は、数年おきにその実施状況について委員会（人権条約機関）の審査を受けます。そこで、各国政府はいかに自国が人権条約を遵守しているかを説明します。これに対して、委員会は懸念点を指摘し勧告を行います。各国の実施状況が委員会の立場と合致しないことは、多々あります。しかし、国は人権条約の実施方法に裁量を有しており、こうした違いをもって、人権条約違反だと直ちにいえるわけではありません。

結局のところ、人権条約は締約国が合意した範囲（状況）でしか適用されず、また締約国が無理なくできる範囲（内容）でしか実現されません。それでも、この限界を緩和するための学問上の取り組みは多々なされています。微力ながら、今後も国際人権法の限界と可能性を見つめ続け、人権課題の実質的な解決方法を模索していきたいです。

研究紹介：教育と研究から見た物理学の魅力

理科領域 白幡 泰浩



「物理」と聞いて、みなさんはどのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。毎年、授業の最初に同じ質問をすると、「苦手」「難しい」「よくわからない」といった答えが多く返ってきます。私自身、中学校までは物理分野を比較的得意としていましたが、高校物理では数式や考え方が難しくなり、理解に苦労しました。その後、浪人時代に基礎から学び直したことで、さらに大学や大学院で研究に取り組む中で、少しずつ物理学の面白さを感じられるようになりました。気がつけば、現在は大学で物理学に関する授業を担当しています。人生は何がきっかけになるか分からないものです。

私は教育学部に所属しながら、化合物半導体の合成研究を行っています。大学での卒業研究において「多元系化合物半導体」と呼ばれる材料の研究に取り組んだことが、現在の研究の出発点です。大学院では「スピントロニクス」と呼ばれる最先端の研究に取り組みました。博士課程修了後は、いくつかの大学でさまざまな太陽電池材料の研究に携わってきました。現在は、こうした経験を踏まえつつ、研究の出発点である化合物半導体の合成研究に改めて取り組んでいます。

私が考える材料研究の魅力は、元素の組み合わせによって結晶構造や電氣的・光学的・磁氣的特性が変化し、多彩な物性を示す点にあります。一方で、材料研究は思い通りに進まないことが多く、地道な試行錯誤の積み重ねが欠かせません。しかし、予想外の結果や新たな現象に出会えたときは、大きな達成感と研究の醍醐味を感じることができます。余談ですが、毎年6月から7月にかけて、理科領域の3年生が研究室訪問にやってきます。残念ながら、「物理学＝難しい」というイメージに加え、「材料研究＝地道な試行錯誤の連続」という印象もあるため、敬遠されがちなのが実情です。

しかし、物理学は決して特別な学問ではなく、エネルギー、医療、情報通信など、私たちの生活を支えるさまざまな技術の基盤となっています。さらに、半導体、量子コンピュータ、核融合発電といった最先端技術にも、物理学が活かされています。そこで私の授業では、学生に最新の科学技術を調べて発表してもらう機会を設けています。授業で学ぶ内容が実社会や最先端技術とどのようにつながっているかを知ること、物理学をより身近に感じてもらいたいと考えているからです。また、演示実験に加えて、学生自身が簡単な実験に取り組む機会も設けています。実際に手を動かし、観察し、考察する経験は、理科を学ぶ上で非常に重要です。学生の様子を見ると、意外にも楽しみながら取り組んでいることがうかがえます。

今後も教育と研究の両面から、物理学が「身の回りの現象や技術を理解するための学問」であることを、学生に実感してもらえよう努めていきたいと考えています。

研究紹介：ピアノを用いない練習の可能性—演奏経験を基盤としたピアノ教育研究

音楽領域 戸川 晃子



私の専門はピアノ演奏です。ドイツに留学し、国家演奏家資格を取得しました。留学中は、モーツァルト音楽祭、ラインガウ音楽祭にピアノデュオで出演したほか、ピアノリサイタルやイエナ・フィルハーモニー管弦楽団との共演など、演奏活動を行いました。レッスンでは暗譜が基本であり、ピアノを弾いて練習できない期間や環境では、ひたすら楽譜を読み込み、レッスンに臨んでいたことを思い出します。マスターコースでは、世界的に著名なピアニ

ストのレッスンを受講し、作品へのアプローチや演奏表現について多くを学びました。帰国後も、ソロリサイタルや室内楽をはじめとする演奏活動を続けています。こうした経験の中で、私は「イメージ・トレーニング」、すなわちピアノを弾かずに楽譜を読み、頭の中で音や指の動きを思い描くという「ピアノを用いない」練習を取り入れてきました。

この経験を、ピアノ教育者としての研究へと発展させてきました。大学の学生たちは演奏レベルも学習環境も多様であり、自宅に必ずしもピアノがあるとは限りません。そこで、ピアノを用いない練習が学習者にどの程度有効であるのかを定量的に調べてきました。ピアノ初学者を対象にイメージ・トレーニングの効果を検証した結果、短時間の実践でも一定の演奏改善に結びつく可能性が明らかになりました。また、その過程で、演奏上達にはリズム習得が重要であることも見えてきました。

こうした知見を踏まえ、私が提案しているのが「音符の言語化」です。これは、ひとつの音符にひとつの文字をあてはめ、音やリズムをことばとして把握する方法です。ことばで覚えたリズムを復唱しながら打鍵することで、正しいリズムの再現が期待でき、技術向上や演奏表現の向上にもつながる可能性があります（図1）。私は、こうした実践知を経験則にとどめず、教育方法として定量的に明らかにすることを目指しています。さらに「レクチャーコンサート」では、演奏を通して音楽を伝えるとともに、演奏技術の向上を感覚的に語ることにとどまらず、それを教育方法として捉え直して分析し、研究によって得られた知見をレクチャーの中に取り入れながら発信しています。このように演奏と研究の両面から社会に還元することも、私の重要な実践の一つです。現在は、イメージ・トレーニングと音符の言語化の知見を生かしながら、「ピアノを用いない練習」の構築に取り組んでいます。多様な背景や演奏レベルをもつ学生たちが、それぞれの環境の中で「弾かない時間」を学びに変え、無理なく着実に力を伸ばしていけるよう、今後もピアノ教育のあり方を探究していきたいと考えています。



図1 音符の言語化による実践

◇交流教員の活動紹介

香川県教育委員会との連携により、公立学校の現職教員3名が大学教員（准教授）となり、教員としての実践的な指導力を学生に育成するための教育活動を行っています。今年で24年目を迎えます。

1 学校現場に即した授業の充実

(1) 学部において

交流人事教員が教育現場での経験を生かし、教育課題をもとにした授業、実践的な授業の実施に努めています。主に担当する授業科目は、「授業実践論」「教職研究Ⅰ（教育法規入門）」「保育・教職実践演習」「教職研究Ⅱ」「学校教育課程論」「生活科授業研究」等です。学生と共に教育現場を踏まえた課題・内容についての演習や協議を行い、考えを広げ深めることをねらいとしています。

4年生を対象とした「授業実践論」では、交流人事教員全員が指導を行っています。授業内容は、授業づくりの理解に加え、「就職セミナー」（学生支援専門委員会主体）や「教職自主サークル」（学生主体）と連携し、教職をめざす学生が具体的なイメージをもって内容を理解できるように演習を行っています。「就職セミナー」とのタイアップでは、学部教員のご協力のもと、個人面接、集団討論・グループワーク、模擬授業の指導・アドバイスを受けられる活動にしています。学生は基本的教育技術の習得と教員採用選考試験合格に向けて、教育に関する見方・考え方を広げ、教職の知識・技術を主体的に学ぼうと意欲的です。今年度は、学習指導案を作成するだけでなく、基本的な授業づくり（学習課題設定、発問、板書の仕方等）を学んだあと、グループで学習指導案の検討を繰り返しています。そして、実際に模擬授業や授業討議を行うことで、学校現場で「生きる実践力の芽」を育てています。

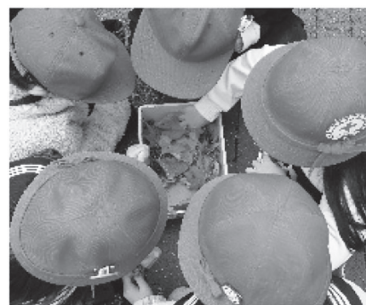
3,4年生の多くが受講する「教職研究Ⅰ（教育法規入門）」では、教育基本法をはじめ、関係教育法規（学校教育法、地公法、教特法等）や答申・通知等について事例をまじえて講義し、教育理念や子どもの学びの保障、教員の身分・職務への理解を深められるようにしています。また、法改正に応じ毎年内容を更新し、最新の制度理解に基づいた授業を行っています。さらに、県教育委員会と県教育センターの指導主事を客員として迎え、「教育法規とケーススタディ」をテーマに、学生の教職への意欲向上を図っています。

4年生後期の「保育・教職実践演習」では、4年間の学修を踏まえて、「授業づくり」「学級経営・生徒指導」等のテーマをもとに経験や考えを交流し対話する演習を行っています。各クラスでの活動も取り入れており、「チーム学校」を体験しながら、課題に対して多様な見方や考え方を見出し、話し合いを深めていく姿が多く見られます。このような活動を通して、問題意識をもつこと、協働して考えること、互いのよさを生かすことなど、関係性づくり、コミュニケーション力を高める機会にもなっています。

「生活科授業研究」では、高松市立新番丁小学校の1年生を大学に招き、学生主体で計画した「あきとなかよし」の授業を実践しています。実際に児童と関わり合うことで、思いや気付きに触れることができるため、児童理解や学習活動について、新たな発見や課題を見出すことができ、今後の学びにつながるものとなっています。

(2) 高度教職実践専攻（教職大学院）において

交流人事教員のうち1名は、主として高度教職実践専攻（教職大学院）教員として活動しています。担当授業の一つである「道徳授業の実践研究」では、道徳科に生かす多様な表現活動について、具体的な実践事例を基に演習を交え講義を行っています。また、「授業力開発実習」では、個別指導する院生の研究課題に沿った授業実践に関わり、教材研究のあり方や具体的な授業づくりについて、実践を通して指導しています。さらに「教職実践研究」では、研究課題に関連した先行研究や実践事例を紹介したり、院生が実習を通して学びを深めたことを価値づけたりしながら研究上の疑問を解決に導く指導、助言を行っています。学校現場での豊富な実践経験という交流人事教員の最大の強みを生かし、理論と実践の融合を図る研究となるよう指導に努めています。



【生活科授業研究】「あきとなかよし」
～あきのたからさがし～

2 教育委員会・学校との連携

県や市、地域ブロックでの研修会における講師や指導助言者として、大学での研究をもとに現職教員と学び合う機会をもっています。また、学生においては、学校から校外学習サポートや学習支援などの依頼を受けることが多くあり、その際には、児童・生徒への関わり方について相談に乗る等、学生指導を行っています。その他、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加等、学生が学校現場に出向く機会を多くもてるよう、その仲介役を務めています。

また、円滑な高大接続の推進を目的として、県内の高等学校との連携にも力を入れています。総合的な探究の時間における研究アドバイザーや土曜日の自主学習のチューターとして学生を高校に派遣したり、交流教員が高校の探究発表会で指導助言を行ったりするなど、高校生の探究的に学ぶ力の育成や進路意識の向上につながる取組を進めています。

このように、県・市町教育委員会や教育機関、学校と大学との橋渡し役としての役割も果たしているところです。

3 学生の教員採用選考試験突破へのサポート ～「教職自主サークル」と「教育相談」～

授業の他にも「教職自主サークル」（毎週月曜 18：00～19：30）や「個別指導・相談」（授業時間以外の時間）などを通して学生支援を行っています。「教職自主サークル」は、多くの教員志望の学生の自主的な勉強会であり、3名の交流人事教員はオブザーバーとして学生の主体性を尊重しながら適宜指導・助言を行っています。また、個人やグループでの指導を望む学生も多く、願書作成、模擬授業、集団討論、個人面接などの個別指導や進路に関する悩みなどの教育相談も行っています。個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、力を入れて取り組んでいます。

4 学生と共に行う地域貢献

10月に開催されている「未来からの留学生（教育学部フェスティバル in 香大）」では、「おはなしの国」の講座において、学生への支援を行っています。昨年も2公演行い、子どもたちや保護者の方が笑顔で楽しむ様子が見られました。学生たちにとっては、創作劇の発表や音楽に合わせた遊びを通して、子どもたちとの関わりを学ぶ貴重な機会となっています。また、学生一人ひとりが役割をもち協力する中で、仲間意識や協働性の向上にもつながっています。



「おはなしの国 2025」

5 本年度着任の交流人事教員

【教育実践 准教授 川原 一浩（かわはら かずひろ）】

この4月に、香川県教育委員会との交流人事教員として、香川大学に着任いたしました。このたびご縁をいただき、教員養成を担う本学の一員として、教職を志す学生の育成に携わる機会を得ましたことを、身の引き締まる思いで受け止めています。これまで県内外の高等学校で勤務し、日々の授業に加え、学級担任として生徒指導や保護者との連携、さらには部活動や進路指導など、多様な場面で生徒と関わってきました。その中で痛感しているのは、確かな授業力と、子どもに寄り添う人間的な在り方の双方が備わってこそ、子どもたちの成長に責任をもって関わるができるということです。本学では、こうした実務経験に基づく視点を踏まえつつ、学生の皆さんが将来の学校現場を具体的に思い描きながら学ぶことができるよう、講義や演習に努めたいと考えています。とりわけ、模擬授業や教育実習の事前・事後指導の場面では、単に「うまく授業ができたかどうか」を問うのではなく、「なぜその指導方法を選んだのか」「子どもたちにどのように成長してほしいのか」といった観点を大切に、学生一人ひとりと丁寧な対話を通して、試行錯誤を恐れず挑戦し、その過程を振り返りながら、自らの指導観や子ども観を言語化していくことが、将来の教員としての基盤づくりにつながると信じています。あわせて、高等学校とのつながりを生かし、高大連携の観点から本学の教育にも貢献したいと考えています。高校生が大学での学びにふれる機会や、本学の学生が高校現場をより身近に感じられる機会を設けることで、本学の教職課程の一層の充実と地域の教育力の向上に、微力ながら寄与したいと考えています。学生の皆さんとともに学ぶ姿勢を忘れず、皆様のご指導を賜りながら、教員として必要な実践的な指導力の育成に貢献できるよう励んでまいります。今後ともご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



【地域連携】

◇香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

I 協議会関係

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	○ 連携協議会 (R8.1.30) ○ 幹事会 (R8.1.19) ○ 専門委員会 開催なし	連携協議会開催 (R9.2 予定) ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	○ 令和6年度実績報告書作成	・ 令和7年度実績報告書作成	

II 連携関係

1 教員養成に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	○高松市立新番丁小学校 2 名 ○高松市立紫雲中学校 1 名 ○香川県立坂出高等学校 1 名 ○母校実習 5 名 ・ 香川県 (香川県立善通寺第一高等学校 1 名) (香川県立観音寺総合高等学校 1 名) ・ 徳島県 (徳島県立海部高等学校 1 名) ・ 岡山県 (玉野市立築港小学校 1 名) ・ 静岡県 (浜松市立八幡中学校 1 名)	・ 継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	○ 教員採用内定者が公立学校で研修 ・ 対象者：49 名 ・ 実施期間 令和8年1月～3月 (5 日程度)	・ 継続実施	資料 1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	○ 高度教職実践専攻における実習連携協力校 4 校の連携協力校 (高松市立玉藻中学校, 高松市立屋島中学校, 高松市立多肥小学校, 観音寺市立観音寺小学校)	・ 継続実施 47 校園の連携協力校 (県立特別支援学校 2 校, 高等学校 3 校, 中学校 14 校, 小学校 26 校, 幼稚園 2 園) ※新たに2校 (高松市立鬼無小学校, 善通寺市立東中学校) 追加予定。	
④公立学校教員等の活用 (県教育センター) (義務教育課) (高校教育課) 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	○ 教育実践集中講座の実施 ※教育関係職員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 ・ 退職校長 (日下哲也) 主任指導主事 (松本裕美, 尼子智悠) ・ 年間2期, 1人20～25時間程度の講義 ○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義	・ 継続実施	資料 2
	○ 現職教員等3名を大学教員 (准教授) として採用 (H15.4.1～) 川東芳文, 中名紀子, 大和田俊	・ 継続実施	資料 3
⑤大学教員の公立学校現場での研修制度 (義務教育課) 〔担当：教育学部〕	○ 大学教員が公立学校現場で研修 ※コロナ禍以降実施せず。	・ 継続実施	

2 教員研修に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8 名, H20.7 名, H21.8 名, H22.7 名, H23.6 名, H24.5 名, H25.5 名, H26.5 名, H27.5 名, H28.11 名, H29.10 名, H30.10 名, R1.10 名, R2.6 名, R3.4 名, R4.8 名, R5.9 名, R6.8 名, R7.6 名) ・教職大学院学校力開発コース 1 名 ・教職大学院授業力開発コース 4 名 ・教職大学院特別支援開発コース 2 名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施 (令和8年度は9名の予定) ※9名の内訳(義務教育課7名, 県立(特支)2名)	
②教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月~10月)への大学教員の派遣等	・継続実施	資料4
③(免許法認定公開講座) [担当: 教育学部]	○ 小学校の現職教員が中学校教諭免許状(英語を取得するための免許法認定講習は令和6年度で終了)	・令和6年度で終了	
④指導改善研修 (県教育センター) [担当: 県教委]	○ 対象受講者がなかったため, 未実施。	・未定	
⑤教職員研修 (県教育センター) [担当: 県教委]	○ 基本研修・職務研修・専門研修の講師・助言者として大学教員を派遣(9講座) ○ 教職大学院連携研修講座として6講座を実施。 ・子ども理解と学習指導 23 名 ・道徳科の授業づくり 13 名 ・教育効果を高めるための ICT 活用法 17 名 ・授業における特別支援教育 24 名 ・学校の危機管理研究Ⅰ-① 2 名 ・学校の危機管理研究Ⅰ-② 2 名	・継続実施 ・継続実施 ・2講座を新規開講予定(学校の危機管理研究Ⅱ-①, ②)	
⑥特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 内地留学の実施 (H25 2 名, H26 2 名, H27 2 名, H28 2 名, H29 2 名, H30 2 名, R1 2 名, R2 1 名, R3 1 名, R4 1 名, R5 1 名, R6 2 名, R7 1 名) ※ R7 義務0名, 特支1名	・継続実施	
⑦教員研修連携科目の実施 (管理職候補者研修会) (義務教育課) [担当: 県教委] [担当: 教育学部]	○ 管理職候補者研修会年8回のうちの2回を香川大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究Ⅰ」として実施(大学教員が担当) ○ 学校の危機管理研究Ⅰ(集中・1単位) 7月31日 37名(うち院生2名) 8月1日 34名(うち院生2名) ○ 学校の危機管理研究Ⅱ(集中・1単位) 9月6日 10名(うち院生2名) 9月13日 10名(うち院生2名)	・継続実施	資料5
⑧教職大学院科目等履修制度の創設 (義務教育課) [担当: 教育学部]	○ 教員研修連携科目を履修する場合, 事前に「教職大学院科目等履修生」として申請・登録して履修することにより, 「教職大学院科目等履修単位」として認定する。 ※上記⑦の受講者のうち, 科目等履修生として受講した者 ・学校の危機管理研究Ⅰ(集中・1単位) 7月31日, 8月1日とも 8名 ・学校の危機管理研究Ⅱ(集中・1単位) 9月6日, 13日とも 8名 ○ 「教職大学院科目等履修単位」を取得した者が教職大学院へ入学した場合は, 当該科目を取得済として認定する。	・継続実施 ※引き続き, 管理職候補者及び「小中教育指導研修」受講者へ積極的に働きかける	

3 調査・研究に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当: 県教委]	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業 ・幼児教育支援員派遣事業 ・道徳教育地域支援委託事業	・継続実施 (事業内容については検討中)	資料 6
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当: 県教委]	○「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析に対する指導助言	・原則継続実施 (香川県学習状況調査の実施内容が変更になるため、事業内容については検討中)	資料 7

4 事業に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) [担当: 県教委]	○ 大学教員を講師として派遣 ・高松桜井高 ・高松商業高 ・高松西高	・継続実施	
②高大連携 (高校教育課) [担当: 県教委]	○ 高校生が香川大学の公開授業や体験授業に参加 公開授業: 1 学期 15 名, 2 学期 15 名 体験授業 (夏休み): 37 名	・継続実施	
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) [担当: 県教委]	○ 学生ボランティア派遣事業 (登録者 15 名) ・学習指導の補助, 学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター (適応指導教室) に 16 名を派遣 ○「放課後子ども教室」支援ボランティア等の募集	・継続実施 ・継続実施	
④未来からの留学生 [担当: 教育学部]	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催 (県教育委員会後援) 約 1000 名が参加	・継続実施	資料 8
⑤県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・継続実施	
⑥各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) [担当: 県教委]	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・継続実施	
⑦生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) [担当: 県教委]	○「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開した。	・継続実施	
⑧特別支援教育総合推進事業 ・専門家チーム ・巡回相談 ・就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 特別支援学校のセンター的機能での教育相談や特別支援学校に在籍する幼児児童生徒に対する指導の困難事例についての指導助言 ○ 特別支援学校を訪問し, 幼児児童生徒への指導内容・方法, 学校の支援体制について指導助言 ○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義	・継続実施	
⑨全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業 (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 特別支援教育に関する, 教員に必要な資質能力の指標作成や教員のキャリアに応じた研修内容等についての協議	・令和7年度で事業終了 ・成果を引き継ぐ新規事業を実施予定	資料 9

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
⑩ 令和7年度 独) 教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業 〔担当：教職大学院〕	○ 四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院との共催において実施。令和7年度は3つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に各教員の資質・能力向上につなげる内容を香川県教育センターや高松市総合教育センターとの協働のもと、多くの先生方との協力を得て提供してきた。 道徳ラボ (3回) 保健室ラボ (1回) 学級づくりラボ (1回)。四国内の大学教員の協働で道徳教育研修DVDを作成 (3月に完成予定)。	・ 次年度は、四国地域教職アライアンス香川大学センターではなく、香川大学単独でNITSに事業申請中。採択になれば、授業づくりラボ、保健室ラボ、ICTラボを実施予定。「参加者主体型研修モデル」を導入予定。	
⑪ 坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員による指導等 ・ 出前講座の実施 (9回) ・ グループ研究指導 (3回) 及び研究室訪問受け入れ ・ 大学訪問の受け入れ (1回) ○ 附属学校における活動 (計14回) ・ 附属坂出小学校 (6回) ・ 附属坂出中学校 (4回) ・ 附属坂出幼稚園 (3回) ・ 附属特別支援学校 (1回) ○ 教育創造コースの教育内容に関する検討	・ 継続実施	資料10
⑫ 教員研修の高度化推進事業 (2. 教員研修の高度化モデル開発事業) (県教育センター) 〔担当：教育学部〕	○ 香川大学と県教育委員会は、教師のキャリアプランニング支援システム (教員と校長の1 on 1 対話支援ツール) を運用中	・ システムの運用を検討	資料11

5 その他

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
① 附属学校への教員派遣 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 令和7年度新規派遣 ※ () は合計数 ・ 附属高松小 3 (25) ・ 附属高松中 4 (19) ・ 附属坂出小 4 (18) ・ 附属坂出中 4 (19) ・ 附属特別支援学校 4 (13) ・ 附属幼稚園 1 (5) ・ 高松園舎 1 (1) 計21名 (100名)	・ 継続実施	

参照

6 香川大学の取組

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資料
① SDGs 教育プロジェクト 〔担当：教育学部〕	○ 附属学校と学部との共同研究 ○ イベントの実施等 (主なもの) ・ 「サイエンスがひらく未来のキャリア」 (8月9-10日) ・ 在来コメ品種「白稲 (しろいね)」 「栽培・醸造実験の成果報告と試飲会」 (5月16日) ・ アジア環境史協会第1回国際学会 (9月26-30日) サポート ・ 「SDGsを学問する」 講演会 (11月20日) ・ 全学共通科目「SDGs学入門」企画と運営・創発科学研究科共通科目「フィールドスタディ」企画と運営	・ 継続実施	資料12

◇第 24 回「未来からの留学生」

第 24 回「未来からの留学生」についてのご報告

実行委員長 宮前 淳子

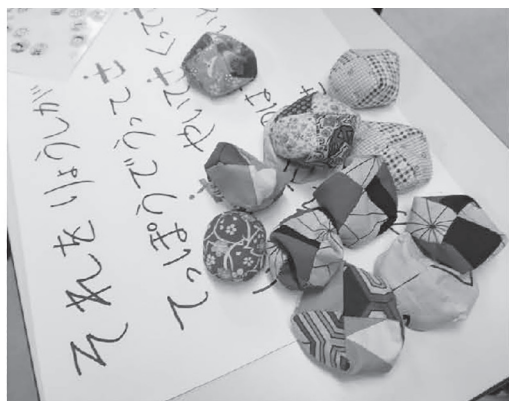
第 24 回未来からの留学生を令和 7 年 10 月 12 日（日）に開催いたしました。

事前予約では多くの申し込みをいただき、約 500 名の皆様に講座当選のご連絡をさせていただきました。また当日は、講座に参加されるお子様だけでなく保護者やきょうだいの皆様など合わせて約 1000 名の地域の方にご参加いただきました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、教育学部 2 年生の学生が主体となり、活動の企画・運営を通じて、子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。例年と同様、今年も事前完全予約制の形式をとりました。8 月下旬には県内の各小学校および附属園等にチラシを配布し、9 月初旬より未来からの留学生 HP にて各講座への募集を開始しました。今年度の事前申込型講座は、学生が所属する各領域から合計で 30 講座が展開されました。この事前申込型講座では、申込みできるのはお一人 1 講座までとなっておりますが、事前申込型講座の時間以外も楽しんでいただけるよう、いつでも参加可能な自由参加型講座も 6 講座設けました。また、今年も引き続き、香川県教育委員会様のご協力のもと、自由講座として「Zutt Mott ふるさと」が開講されました。

各領域の学生からの報告書には、企画・実践・振り返りを通した学びの成果や、子どもとのかかわり方への気づきについての学生の記述が多数見られました。これらの記述から、本事業における学生の成長を実感しております。なお、報告書は教育学部 HP に掲載され、各講座における取り組みの様子が公開されております。

最後になりましたが、本事業は香川県教育委員会様および香川大学教育学部後援会様のご支援を受け、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施に関しまして、多方面からご尽力頂きましたことに深く御礼申し上げます。



【国際交流】

◇ 2025 年度の国際交流活動

Successful Exchanges Expanded

2025 年度 国際交流委員長 ポール・バテン

2025 年度も、活発な国際交流が実施された一年でした。

5 月に米国コロラド州立大学の短期留学生 14 名と教員 1 名を 6 週間ほど受け入れました。台湾国立嘉義大学から 6 月に学生 7 名を 2 週間受け入れし、附属高松小学校で英語の授業法を学ぶ教育実習を行いました。2026 年 1 月に 4 名、3 月に 5 名学生を受け入れ、レゴを用いたプログラミング学習を附属坂出小学校と、附属高松小学校で実施しました。8 月には平学部長がコロラド州立大学へ訪問しました。韓国の誠信女子大学から 1 年間の長期留学生 2 名を受け入れました。8 月にブルネイの Universiti Brunei Darussalam の 5 名の研究者を受け入れ、香川県下の教員向けの食育プログラム研修を実施し 30 名の参加者がありました。また徳島文理大学でのサイエンス展でブース出展を実施しました。

チェンマイ大学附属中学校と教育学部附属中学校のオンライン生徒交流を今年度も 6・7 月に行い、活発な交流になりました。

2026 年 2 月～3 月、タイ・チェンマイへの短期留学プログラム（5 名・高須先生引率）、台湾国立嘉義大学へ（5 名・松本先生引率）、コロラド州立大学 PLACE(Programs for Learning Academic and Community English) の英語学習センターで 2・3 月に 2 名(教育学部)の短期交流プログラムが実施されました。28 年間続いているニュージーランドの協定校のクライストチャーチ工科大学に学生 6 名を 3 月と 9 月に短期派遣しました。教職大学院生 2 名も派遣しました。同大学の斡旋で現地の中学校での授業を参観しました。新しい協定校として、国際交流委員の寺尾教授の研究の交流を生かしてインド北東地方メガラヤ州の William Carey University と協定を結びました。

教育学部として、グローバルな資質能力を伸ばすため、2025 年度も海外日本人学校での教育実習（学校インターンシップⅢ）を実施しました。学生 2 名を派遣しました。多くの教職員、学生の力によって実現できましたが、これもひとえに後援会の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

以下教員、教員・学生の報告を掲載します。

タイ・チェンマイ短期留学

教育領域 講師 高須明根

タイの北部に位置するチェンマイは、自然豊かで、独自の伝統・文化が育まれている古都です。2026 年 2 月 16 日から 3 月 6 日までの 18 泊 19 日、5 名の学生がこの短期留学プログラムに参加しました。

チェンマイ大学人文学部の教員や学生の協力のもと、現地の高校や幼少中学校において、日本文化を伝える機会を得るとともに、タイの食文化や大自然に存分に浸かりました。特に、ドイ・インタノンにある村でホームステイをした経験は、学生たちにとって忘れられない思い出となっているはずです。

このプログラムでは、パディとしてチェンマイ大学の学生たちが多くのサポートをしてくれました。パディと日本語で話してみたり、英語も使ってみたり、タイ語を教えてもらったりと、学生たちが異文化への理解を深める上でこの交流は大きな意味をもちます。また、このプログラムを円滑に、さらには臨機応変に運営してくださったボーディン先生には感謝しかありません。

初めて海外に行ったという学生が、今回は多くいました。このプログラムは、そのようにまだ海外に行ったことがない学生にとって、最適なものとなっています。この経験が、将来教員として働いたときに、少しでも活かされることを願っています。



タイ・チェンマイ短期留学国際交流体験記

教育学部 2年生 中尾美都

今回の留学では、異文化交流や語学学習を通して多くの貴重な経験をすることができました。特に印象に残っている思い出は二つあります。

一つ目は、ドイ・インタノンでのホームステイです。ドイ・インタノンはタイで最も標高の高い山として知られています。現地ではカレン民族の家庭にホームステイをさせていただきました。初めて訪れた際は慣れない環境に少し不安もありましたが、ホストファミリーの皆さんがとても温かく迎えてくださり、すぐに打ち解けることができました。

夜には子どもたちと UNO やトランプで遊びました。翻訳アプリを使いながらルールを説明したり、表情や身振り手振りを交えたりしてコミュニケーションを取ることができました。また、カレン民族の伝統的な遊びも教えてもらい、一緒に楽しい時間を過ごしました。言葉が十分に通じなくても、お互いに理解し合い、交流を深められることを実感した貴重な経験となりました。

二つ目は、チェンマイ大学のバディ学生たちと過ごした日々です。バディ学生たちは私たち留学生を温かくサポートしてくれました。朝食を届けてくれたり、観光地へ案内してくれたり、一緒にさまざまな場所へ出かけたりと、多くの時間を共に過ごしました。

特に印象に残っているのは、ホテルの共有スペースで語り合った時間です。日本語を学んでいるバディ学生たちと日本語で会話をしたり、一緒に動画を見たり、ギターを弾きながらゆったりとした時間を過ごしたりしました。異なる国や文化の中で生活することへの不安もありましたが、バディ学生たちの存在が大きな支えとなりました。

19 日間の留学を通して、異文化理解や語学力の向上だけでなく、「人と人とのつながりは言語だけで成り立つものではない」ということを強く実感しました。ホームステイ先の家族やバディ学生との交流では、言葉が十分に通じなくても、相手を理解したいという気持ちや、相手を思いやる姿勢があれば関係を築くことができることを学びました。

また、日本で当たり前だと思っていた生活や価値観を改めて見つめ直す機会にもなりました。異なる文化や考え方に触れることで、自分の視野が広がり、多様な価値観を受け入れることの大切さを実感しました。今回の留学で得た経験や出会いは、私にとってかけがえのない財産です。今後はこの経験を生かし、さまざまな人と積極的に関わりながら、広い視野を持って学び続けていきたいと思います。



タイ・チェンマイ短期留学国際交流体験記

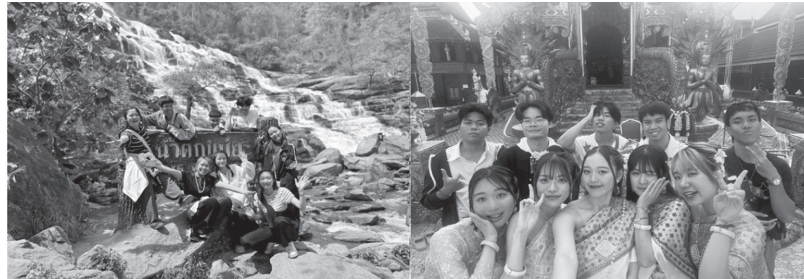
教育学部 2年生 西本美紀

私自身、海外に長期滞在するのは初めての経験だったため、渡航前は分からないことばかりで不安もありました。しかし、この 19 日間で多くの経験を積むことができ、とても有意義な滞在だったと感じています。

まず、私が最も印象に残っていることは、ドイ・インタノンという山奥でホームステイをしながら、国際学校の子供たちと文化交流をしたことです。ドイ・インタノンでは、電気やお湯が使えない生活環境が当たり前で、日本語も英語も通じませんでした。ホームステイをした 3 日間は、気温の高い昼間にホースから出る冷たい水でシャワーを浴びたり、毎朝 6 時前に鶏の鳴き声で目を覚ましたりしました。ホームステイ自体が初めてだった私にとって、そのような環境で生活することには、最初は戸惑いしかありませんでした。しかし、日本とは異なる文化や生活の実態を実際に体感できたことは、とても貴重な経験だったと思っています。国際学校での文化交流では、編み物や竹跳びなどの現地の伝統的な遊びを体験したり、日本の遊びを現地の子どもたちに教えたりしました。「だるまさんが転んだ」や紙飛行機作りを一緒に楽しみ、言葉の壁があっても交流できることを実感しました。3 日間という短い期間でしたが、お別れの際には私たちに抱きついて離れない子ども

たちや、言葉以外の方法で感謝の気持ちを伝えてくれる子も多く、私たちも思わず涙を流しました。チェンマイに戻ってからは、チェンマイ大学の日本語の授業を受けたり、日本を紹介するプレゼンテーションを行ったりするプログラムに参加しました。また、モンクトレイルという山をタイのパディたちと登ったり、象乗り体験をしたり、タイの伝統衣装を着てお寺巡りをしたり、ナイトマーケットに出かけたりするなど、多くの初めての経験をすることができました。楽しい思い出も数え切れないほどできました。

留学プログラムは、海外に行ったことのない人にとっては、少し一步を踏み出しにくいものかもしれません。しかし、私はこのプログラムに参加したことで、他では得られない貴重な経験ができたと感じています。少しでも興味のある人には、時間に余裕のある大学生のうちに、ぜひ挑戦してみてください。



米国・コロラド州立大学短期留学体験記

教育学部 3年生 三好ひより

私は2月17日から3月29日の約6週間の間、春休みを利用して、アメリカのコロラド州フォートコリンズにあるコロラド州立大学（CSU）の留学プログラム「PLACE」に参加しました。参加した理由は、CSUの位置する場所は治安が比較的良好いから、そして一番は、将来私が高校の英語教員になるうえで、正しい発音や流暢な話し方、異文化での経験は英語の指導者からは切っても切り離せないものであり、児童生徒にとってより楽しいと思える授業を行うための一助になるのではないかと考えたからです。では、私がこの留学で学んだことについて、具体的な経験も交えながら紹介します。

まず、英語能力、特にスピーキングとリスニング能力が圧倒的に伸びたと実感しています。私はCSUの中でも、英語学習を重点的に行う（語学学校に近い）クラスに約1か月間所属していました。そのため、教室には母国語として英語を話す人はおらず、学生の出身国はブラジルやサウジアラビアなど第一言語が英語ではない多様な国でした。そのような多国籍の学生が集まるクラスでの毎日は本当に新鮮で、発言の場があれば、我先にとクラスメイトが積極的に答えていたのが非常に印象的でした。そして同時に、全員が自分の英語（話し方、アクセントなど）に自信を持って堂々と話していたことが素敵だと感じました。クラスの雰囲気に慣れるまで時間はかかりましたが、少しずつ堂々と自分の意見をはっきりと自分の言葉で伝えられるようになりました。

また、現地で出来た友達と一緒にハイキングに行ったり、日本食を作ったりして、感謝しきれないほど親切にしてもらいました。この経験を通して、自分の時間を割いて一緒に思い出を作ろうとしてくれることが、どれほど嬉しいことか、改めて実感できました。今までは留学生と交流することに緊張や不安がありましたが、留学を経た今、香川大学に来てくれたCSUの学生に限らず、他の国からの留学生ともためらわず交流できるようになりました。

この留学は、私の英語能力の向上だけではなく、新しいコミュニティーに入る勇気、何事にも積極的に取り組もうとする姿勢、異文化や新しい環境を受け入れ、適応する力などの人間的な成長ももたらしたと身をもって実感しています。



台湾國立嘉義大学短期派遣学生プログラム

幼児教育領域 教授 松本博雄

2026年3月1日から17日まで、台湾國立嘉義大学短期派遣学生プログラムを実施し、教育学部からは4名の学部生が参加しました。

台湾國立嘉義大学は、4つのキャンパスに7つの学部と大学院研究科、その他研究所や附属施設を有する総合大学であり、略称は本学と同じ「カダイ」です。教育学部に相当する師範学院には、教育学、特殊教育、幼児教育学、Eラーニング&マネジメント学などの学系が設置されており、本学部とよく似た構成です。東アジアの漢字文化圏で親日的であり、学生の語学力も非常に高く、食文化も私たちと似通っています。航空便は、毎日運行の台北便に加え、より嘉義に近い台中へも週4回運航され始めました。学びの内容、利便性はもちろん、金銭的な負担も少ないことから、特に初めて海外に行く学生の留学先として最適なパートナーだと考えられます。今回、初めてパスポートを取得しての訪問学生も実際におりましたが、非常に刺激的かつ濃密で、学びの多い日々を送ることができたようです。

プログラムは、嘉義大学側の交流担当である黃國鴻教授・賴孟龍副教授・林郡雯副教授をはじめとする教員スタッフの多大なご尽力により、本年度もまた大変に充実した内容となりました。大学キャンパス内の寮を拠点に、大学施設を活用しての学生間交流、特色ある教育内容をもつ複数の公立幼稚園・小学校、民間保育施設また附属小学校への訪問など、多様な教育・保育の実際に触れる機会を設けていただきました。また、嘉義大学が地域連携として力を入れている自然保護区での海岸保全フィールドワーク、台湾の民主化に至る歴史を知るための台北への人権教育ツアー、阿里山へのトレイル、嘉義県内各地へのショートトリップなど、自然・文化・歴史の多岐にわたって台湾について学ぶ貴重な機会に恵まれました。これら全てのプログラムに嘉義大学側の学生・院生の積極的な参加を得たことで、学生間のつながりは日に日に強まりました。ここでの学生間の関係が、例年6月に実施されている嘉義大学生の本学部での短期留学プログラムにおける、継続的な交流につながっています。

国際社会の平和と発展を担うこれからの若い学生達が、単なる異文化交流を越え、留学の最大の醍醐味である、自分と同じように学んでいる相手と出会い、学問的な中身を深めつつ、互いを知りながら信頼関係を結んでいくことは、大学ならではの国際交流活動の成果です。本学からの訪問と、先方からの訪問受け入れを重ねる中で、学生同士の信頼感の深まりというよい循環を継続できています。今後も交流の深まりが大いに期待できます。



台湾・国立嘉義大学への短期訪問体験記

教育学部 2年生 北村桃子

私は3月に約3週間、台湾の国立嘉義大学への短期訪問に参加しました。出発前は、現地での生活や言語面への不安に加え、人見知りな性格も相まって、現地の人と良い関係を築けるだろうかと不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に台湾で過ごした約3週間は、その不安を忘れてしまうほど充実した、かけがえのない経験となりました。

留学中に特に印象に残っているのは、台湾の方々の温かさです。留学が始まってまだ5日ほどしか経っていない頃、現地の学生たちが公園で私の誕生日をお祝いしてくれました。知り合ってもないにもかかわらず、たくさんの人が声をかけてくれ、一緒に過ごしてくれたことが本当に嬉しく、今でも忘れられない思い出です。また、日常生活の中でも台湾の人々の優しさを感じる場面がたくさんありました。「よく眠れた?」「疲れていない?」と気にかけてくれたり、私たちが楽しめるようにアクティビティをたくさん企画してくれました。私は英語が得意ではなく、うまく聞き取れなかったり、自分の思いを伝えられなかったりすることもありましたが、そのたびにゆっくり分かりやすく伝えようとしてくれたり、根気強く私の言葉に耳を傾けてくれました。その優しさに何度も助けられました。さらに、日本と台湾の





違いについて話したり、中国語や日本語を教え合ったりする中で、完璧な文章でなくても相手を理解したい、伝えたいという気持ちがあればコミュニケーションは成り立つのだと実感しました。この経験は言葉だけでなく、相手と向き合う姿勢を学ぶきっかけにもなりました。

この留学を通して、私は以前より少し積極的になれたと感じています。留学前の私は、人見知りな性格から自分から話しかけることを避けてしまうことが多くありました。しかし、台湾では待っているだけでは自分の成長には繋がらないと思い、勇気を出して話しかけたり、分からないことを質問しました。最初は緊張することもありましたが、実際に話しかけてみるとみんな温かく応じてくれたため、少しずつ自信を持ってコミュニケーションをとることができました。この経験を通して自分から行動することの大切さを学ぶとともに、一歩踏み出す勇気が新しい出会いや学びにつながることを実感しました。今回の留学で得た経験や学びを、これからの大学生活や将来に生かしていきたいです。



ニュージーランド・クライストチャーチ工科大学短期留学体験記

教職大学院 1年生 河原直希

私は令和7年8月末から9月中旬までの約3週間、ニュージーランドのクライストチャーチ工科大学の短期留学プログラムに参加しました。私にとって初めての海外留学であり、不安や戸惑いを感じる日々でもありました。しかし、多くの方々との出会いや支えがあったからこそ、かけがえのない経験をする事ができたと感じています。今回は、その中でも特に大きな学びを得た二つの経験について紹介したいと思います。

一つ目は、クライストチャーチ工科大学の語学学校での学習体験です。語学学校では、入学時のプレテストをもとに、レベル別のクラスが午前と午後に設定されています。どちらのクラスでも、日本人留学生だけでなく、台湾・中国・タイなどの多様な国や地域から来た留学生と共に学びました。また、年齢や国籍の異なるクラスの方と交流する機会もあり、多様な人々とコミュニケーションを図る貴重な体験を得ることもできました。この体験を通して、自身の英語力、特にスピーキング力とリスニング力に課題があることを実感するとともに、コミュニケーションを図ろうとする姿勢の大切さを学びました。間違えることを恐れるのではなく、「まずやってみる」「挑戦してみる」ことの重要性を改めて感じました。

二つ目は、現地の学校訪問および授業参観での体験です。私は現地の中・高等学校と特別支援学校の二校をそれぞれ一日ずつ訪問することができました。中でも、特別支援学校での学びは特に印象に残っています。学校文化をはじめ、施設の在り方や教育観など、さまざまな面で日本との違いを感じました。特に印象に残った教育観について紹介します。目標とする Core Values を中心とした教育システムを掲げており、それらを達成するためのモットーとして“Unlimited Discovery”が示されています。この考えを達成するために、その生徒理解や特性を重視し、従来の科目だけでなく、個々の実態に応じた柔軟なカリキュラムが組まれていました。学校での学びを卒業後のキャリアへとつなげていく教育システムに感銘を受けました。

これらの体験、多様な人々との出会いと学びを通して、私自身の視野や視座が広がり、物事をより多面的・多角的に捉える視点を身に付けることが出来たと感じています。今回得た学びを、今後の教員人生に生かし、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。



【学生の活動】

2026 年度教職自主サークル
活動代表者（世話人） 田中実玖

◇「教職自主サークル」

教職自主サークルについて

教職自主サークルは、学生が主体となって教員採用試験対策を行う中で、教職についての理解を深めるサークルです。毎年4月から二次試験のある8月まで、毎週月曜日の6コマに集団討論や集団活動、模擬授業、個人面接などの演習をはじめ、各自治体の試験に関する情報・意見交換を行っています。



【教採に向けての講話】

また、先生方から討論や模擬授業のポイント等についてご指導いただき、それを基に学生同士で意見交流をしながら日々切磋琢磨しています。今年度は、植田和也先生のご講話からスタートし、教員採用試験を一丸となって乗り越えていこうという士気を高めました。毎年7月末頃には、二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を行っています。11月には、教職2年目の卒業生から教職の魅力や難しさなど教員生活の実情を聞く「卒業生と在校生との交流会」もあり、学年を問わず、多くの学生が参加しています。

運営を行っているのは、教育学部生5名、医学部生1名で構成される計6名の世話人です。世話人を中心として、交流人事教員や教職大学院の先生と日程や活動調整を行い、一次試験と二次試験に向けた対策を行っています。今年度は、3・4年生を中心に140名以上の参加があり、教育学部生だけでなく、養護教諭を目指す医学部看護学科の学生も所属しています。学生の志望する自治体は香川県、岡山県が主ではありますが、他の自治体も含め一丸となって取り組んでいます。

また、教員採用試験だけでなく、4月からの教員生活に向けて力を付けています。私自身、同年代の学生や先生方と共に自主サークルを運営していく経験は、集団活動の中で生活していく教職にも活かすことができる貴重な経験になると感じています。また、運営するに当たって、教職自主サークルの世話人や関わってくださっている先生方を中心に多くの支えがあって成り立っていること、チームとして集団を作っていくことの大切さを日々実感しています。



【先輩教員からの模擬授業指導】

教員採用試験を終えた後期には、次年度に受験を控える後輩を支援する側に回り、願書指導や一次試験、二次試験対策についての話をする機会を設けています。このサークルに入る多くの人が、専門的な知識を身に付け、協力して一つの目標に向かって取り組むことのすばらしさを学ぶことができるように一致団結して励んでいきます。

最後になりましたが、今年度の教職自主サークルの活動に際しましても、教職大学院教員2名、大学新任教員2名、交流人事教員3名の先生方をはじめとする多くの方々にご支援、ご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

2026 年度 教職自主サークル 【前期】

1. 日時 毎週月曜日 18:00～19:30
2. 場所 415 講義室 他（人数や内容、状況などによって変更有）
3. 活動 模擬授業・集団討論・集団活動・個人面接などの教員採用試験対策
4. 支援者 中名紀子先生 大和田俊先生 川原一浩先生 他
5. 日程（予定）

月日	回	内 容
4 / 13	第 1 回	オリエンテーション（模擬授業の行い方 等）、アンケート調査 自主サークルの在り方（中名先生）
4 / 20	第 2 回	植田和也先生ご講話 『教育の今日的課題と教採に向けて』
4 / 27	第 3 回	集団討論・集団活動練習①（自治体により、集団・個人面接）
5 / 11	第 4 回	集団討論・集団活動練習②（自治体により、集団・個人面接）
5 / 18	第 5 回	模擬授業練習①
5 / 25	第 6 回	模擬授業練習②
6 / 1	第 7 回	集団討論・集団活動練習③（自治体により、集団・個人面接）
6 / 8	第 8 回	自治体別交流会 ※詳細は後日連絡します。
6 / 15	第 9 回	模擬授業練習③
6 / 22	第 10 回	直前演習①（集団討論、集団活動、集団・個人面接 等） ※試験当日の服装及び頭髪で参加
6 / 29	第 11 回	直前演習②（集団討論、集団活動、集団・個人面接 等） ※試験当日の服装及び頭髪で参加
7 / 6	第 12 回	集団討論・集団活動練習④、模擬授業練習④ ※自治体により、一次試験対策か二次試験対策と異なります。
7 / 13	第 13 回	集団討論・集団活動練習⑤、模擬授業練習⑤ ※自治体により、一次試験対策か二次試験対策と異なります。
8 / 1（土）	第 14 回	先輩教員に模擬授業を観てもらう会 ※詳細は後日連絡します。（午後からの予定です。） ぜひ参加して、教採への意欲・力をアップしましょう
夏季休業中		各自・各グループで二次試験対策

2026 年度 教職自主サークル 【後期】

教育研究Ⅱとタイアップして実施

1. 日時 月曜日 18:00～19:30 または 金曜日 1 コマ
2. 場所 621 講義室 他（人数・内容によって変更有）
3. 支援者 中名紀子先生 大和田俊先生 川原一浩先生 他
4. 日程（予定）

月日・コマ	教室	内 容
11 / 16 (月) 6 コマ	415 講義室	教育の最新情報②「先輩教員に学ぶ会」 講師：教職 2 年目の先輩
12 / 11 (金) 1 コマ	621 講義室 他	願書の書き方②「願書作成チェック」 ※積極的な参加をお願いします。
12 / 21 (金) 6 コマ	621 講義室 他	模擬授業対策「4 年生に学ぶ」
1 / 22 (金) 1 コマ	621 講義室 他	集団討議等対策「4 年生に学ぶ」

【学務事務からの情報】

◇インターネットを利用した情報提供システム（学務係）

学務係では、掲示板での周知以外に、学務に関わる各種情報をインターネット経由でお知らせしています。休講、補講など授業に関することは教務システム（カダサポ）で、授業の資料提示やレポート提出などは Moodle（ムードル）を利用して行っています。

●「学務係からの連絡」メールの一斉配信

学務係からの連絡は、前述の教務システムの一斉配信機能を用い、大学から学生一人ずつに付与されている香川大学メールに転送されています。また、学生自身で携帯・スマートフォン等のメールアドレスにも転送するよう設定できます。

●「学務係から」の Web ページ

教育学部ホームページの「在学生の方へ」にある、「学務係から」の Web ページには以下の情報が掲載されています。

- ・年間行事予定
- ・年間時間割
- ・定期試験時間割
- ・集中講義の日程連絡等の授業に関するお知らせ
- ・卒業後・修了後の証明書交付申請方法の紹介

— ◆ — ◆ — ◆ —

◇何でも窓口

教育学部・教育学研究科では、「学生相談室」を開設し、修学、生活、就職・進学などに関する相談にあたっています。また、平成 17 年度から、きめ細かな学生支援ができるように、メールによる「何でも窓口」を開設しました。

「何でも窓口」は、学生が、修学・生活上のこと、就職・進学のこと、疑問なこと、困ったり悩んだりしていることなど、学生生活全般にわたって、どんなことでもメールで尋ねたり、相談したりできる窓口です。

メールアドレス：l-gakumu-c@kagawa-u.ac.jp

※質問や相談の内容については、秘密を厳守します。必要に応じて、教職員との面談も行います。

◇学生表彰（学業）

学生表彰とは、学業成績及び人物共に特に優れていると認められた学業優秀者を表彰するもので、学部学生2年生以上各学年2名及び大学院学生2年生1名を推薦することができます。

令和8年度は、2年生は植木初音さん・橋本理央さん、3年生は坪井優さん・細川日奈理さん、4年生は松岡心花さん・山下ひとみさん、大学院生からは福田雅英さんが選出されました。

授与式は、10月1日に行われる予定で、学業優秀者には、学長から表彰状と記念品が授与されるとともに、本学校友会からも記念品が贈られる予定です。



◇学生表彰（卒業・修了時）

平成20年度の卒業式・修了式より、当該年度の各学部卒業生と各大学院修了生の中からそれぞれ1名の特に優秀な成績を修め、他の学生の模範となると認められる者に対し、学長表彰が行われています。

学部の各コース・領域、大学院の専攻から候補者として推薦された学生を面接し、表彰学生を決定します。

令和7年度は、学部学生からは玄馬久那愛さん、大学院学生からは梶野未結さんが選出され、記念品と賞状楯が贈られました。

【進路選択と就職・進学支援活動】

◇働くこと・就職後を意識したキャリア支援

「キャリア」とは、狭い意味で言えば「職業」のことですが、広い意味で言えば「人生」や「生き方」のことを意味します。また「就職」は人生における通過点のひとつであって、ゴールではありません。就職も含めて、自分が今後どう生きていきたいか、そのために何をしたいか、広い視点で総合的に考えることが、自分自身が本当に満足できるキャリア形成につながります。香川大学では入学時からキャリア教育を行い、将来を見据えながら、自分がどのような人生を送り、どのようなリソースを生かしていきたいかを一緒に考えていきます。キャリアはすぐに答えが出る問題ではありません。そのため1年次から時間をかけて、香川大学では様々な視点から学生のキャリア形成を支援しています。

1年次のキャリア教育は、全学共通科目に「人生とキャリア」（ライフデザイン）という必修科目をもうけています。自分を知り、仕事を知り、地域や世界を知ることを通して、自分らしいキャリアとは何かを考え、「市民としての責任感と倫理観」を育みます。

3年次になると、「就職」に向け様々なガイダンスやセミナーが実施されます。学生の進路に応じた情報を収集・分析するとともに、それぞれに応じた総合的な指導・支援体制をとっています。特に全学のキャリア支援センターでは、学生のキャリア形成支援及び就職支援を推進するため、就職相談コーナーや情報・資料コーナー、パソコンコーナーなどを設置し、専門スタッフによる就職相談・面談や、履歴書・エントリーシートの添削、面接指導、ガイダンス等を含めたインターンシップなどの支援を行っています。



キャリア支援センター

◇教育学部の取り組み

教育学部では、“自らの課題を探りキャリアを育む”ための4年一貫のカリキュラム体制を整え、キャリア教育・支援の充実を図っています。

1年次には、「教職概論」を履修して、附属学校園の实地見学などを含む授業を通して教職の意義及び教員の役割や職務内容を学びます。2年次以降には実践的教育科目も用意され、それぞれの専攻のコースや領域の専門科目について深く探究しながら将来の進路を決定し、3年次から4年次にかけて、就職・進学のための活動が行われます。

正課外活動として、教育学部には地域の児童や生徒の様々な夢や想いを受け止めるプロジェクトが多数あります。またボランティア活動や留学プログラムなども用意されており、学生はこれらの多彩な研究や活動を通して、自らの問いや答えを見つけ、実践的な取り組みを学びます。

3年次になると、学生支援専門委員会（就職関係）が中心となり各種のガイダンス、セミナー、説明会などを開催し、就職・進学活動への支援並びに相談活動を行っています。とくに教育学部では教職志望の学生が多いので、教員採用試験受験者向けのセミナー、説明会の開催に加えて、「教職自主サークル」などの教職志望の学生たちの自主的な取り組

みへの支援,「教職研究Ⅰ(教育法規入門)」,「授業実践論(教職の総合的研究)」,「教職研究Ⅱ」などの教員採用試験受験学生のH R (ホームルーム) 的授業の開設などの教職支援の取り組みに力を入れています。また教員採用試験の早期化に対応できるように2年次から各授業, セミナーや自主サークルにも参加できるように対策をしています。

教育学部附属教職支援開発センターや, 民間企業への「就活」支援に強みを発揮する全学のキャリア支援センターと連携しながら, 教育学部生の就職・進学支援を行っています。

◇教育学部における就職・進学のための年間支援活動（令和7年度～令和8年度）

区 分	開催月日			行 事 名	就職分野等	備 考
セミナー・ガイダンス等	10月	29日	水	3年生向け就職ガイダンス	全員	教育学部就職状況説明会等、全学の就職支援について、教職自主サークルの紹介、4年生による就職活動体験報告
	11月	5日	水	2年生向け教職スタートダッシュガイダンス	全員	就職状況・就職支援の概要説明、教採に向けてのスケジュール確認 4年生による就職活動体験報告とアドバイス、教職自主サークルの紹介
		17日	月	卒業生・在校生交流会（第1回就職セミナー）	教員	本学卒業の現職若手教員と教職をめざす在学生との交流会
		21～		第2回就職セミナー	教員	教員採用試験セミナー（時事通信社）オンデマンド
	11月28日～1月23日			就職セミナー（全6回）	教員	教員採用試験筆記試験対策
	随時			願書指導	教員	学生支援専門委員による教員採用試験願書の添削指導
	4月	30日	木	2026年度第1回就職セミナー	教員	教員採用1次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による 集団討論、面接、集団活動等①
	5月1日～			教員採用試験オンデマンドセミナー	教員	教員採用1次試験直前対策セミナー（時事通信社）
	5月	21日	木	2026年度第2回就職セミナー	教員	教員採用1次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による 集団討論、面接、集団活動等②
	6月	4日	木	2026年度第3回就職セミナー	教員	教員採用1次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による 集団討論、面接、集団活動等③
		18日	木	2026年度第4回就職セミナー	教員	教員採用2次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による模擬授業①
		25日	木	2026年度第5回就職セミナー	教員	教員採用2次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による模擬授業②
	7月	2日	木	2026年度第6回就職セミナー	教員	教員採用2次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による模擬授業③
		9日	木	2026年度第7回就職セミナー	教員	教員採用2次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による模擬授業④
		16日	木	2026年度第8回就職セミナー	教員	教員採用2次試験対策 学生支援専門委員・交流教員・学部教員による模擬授業⑤
教員採用説明会等	11月	20日	木	岡山県教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		26日	水	岡山市教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
	12月	10日	水	兵庫県教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が Webex を用いて教員志望の学生に説明
		17日	水	広島県・広島市教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		24日	水	神戸市教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が zoom を用いて教員志望の学生に説明
		2月 4日	水	香川県教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
	4月	9日	木	兵庫県教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が Webex を用いて教員志望の学生に説明
		13日	月	広島県・広島市教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		15日	水	岡山市教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		16, 21, 23		神戸市教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が zoom を用いて教員志望の学生に説明
		20日	月	愛媛県教員採用選考説明会	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		22日	水	岡山県教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
	5月	7日	木	香川県教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		13日	水	徳島県教員採用選考説明会	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
インターンシップ	4月	提示		インターンシップ周知（キャリア支援センター）	3年生	大学から申請が必要なインターンシップ参加に関する案内等
教員採用模擬試験	11/28～12/9			第1回教員採用模擬試験	教員	ブレ模試 時事通信出版局（教養・専門・論作文）
	1/11～1/18			第2回教員採用模擬試験	教員	協同出版（教養・専門・論作文）
	2/3～2/10			第3回教員採用模擬試験	教員	時事通信出版局（教養・専門・論作文）
	3/3～3/10			第4回教員採用模擬試験	教員	時事通信出版局（教養・専門・論作文）
	3/19～5/24			第5回教員採用模擬試験	教員	東京アカデミー（自治体別模擬試験）
	4/28～5/12			第6回教員採用模擬試験	教員	時事通信出版局（教養・専門・論作文）
幼保模擬試験	1月下旬～2月上旬			第1回幼保模試	幼稚園・保育士	公務員試験セミナー（教養・専門・論作文・SPI・SCOA-A・BEST-A）
	2/21～2/27			第2回幼保模試	幼稚園・保育士	公務員試験セミナー（教養・専門・論作文・SPI・SCOA-A・BEST-A）
	4/15～4/24			第3回幼保模試	幼稚園・保育士	公務員試験セミナー（教養・専門・論作文・SPI・SCOA-A・BEST-A）
公務員採用模擬試験	～11/2			第1回公務員試験全国模試	公務員	東京アカデミー 全国型（教養・専門）
	～2/22			第2回公務員試験全国模試	公務員	東京アカデミー 全国型（教養・専門）
	～3/15～5/17			第3回公務員試験全国模試	公務員	東京アカデミー 地方上級型（教養・専門）
大学院進学	時期未定			大学院教育学研究科説明会	—	研究科の概要等を HP の動画で説明

◇キャリア支援センターによる就職のための年間支援活動（令和8年度予定）

開催月日		行 事 名	対 象
4 月	20・22・23	第1回前期就職スタートガイダンス	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）
	27 日	月 学内個別業界研究セミナー「徳島県・徳島県警察」	◇全学年対象（対面）
	27・28	メタバースを利用した「令和8年度体験型インターンシップ登録企業説明会」	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）
5 月	13 日	水 第1回SPI3理解+WEBテスト受検会	★主に学部3年生・院1年生（対面）
	18・20・21	自己分析&インターンシップ対策講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）
	27, 6/1, 4	職務適正テスト解説会&自己分析講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）
6 月	10 日	水 学内業界研究セミナー&夏季インターンシップ等募集説明会	◇全学年対象（対面）
	15・17・18	インターンシップのための参加準備・マナー講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）
7 月	1・2	オンライン県内企業見学ツアー	◇全学年対象（オンライン）
	3 日	金 集団討論練習会（公務員2次試験対策）	◆主に学部4年生・院2年生（対面）
	15 日	水 夏休みの過ごし方講座	●主に学部1・2年生（対面）
8 月	23 日	日 かがわの企業発見 DAY!	◇全学年対象（対面）
9 月	1 日	火 オンライン県内企業見学ツアー	◇全学年対象（オンライン）
	30 日	水 うどん県の自治体で働く大懇談会	◇全学年対象（オンライン）
	2・28	就職活動リスタート相談会	◆主に学部4年生・院2年生（対面）
	未定	エントリーシート対策講座	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）
10 月	未定	合同企業説明会の回り方&カガタス UC の使い方講座	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）
	22・30	センパイ Café（日程は変更の可能性あり）	◇全学年対象（対面）
11 月	未定	面接・GD 対策講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）
	未定	公安系公務員学内業界研究セミナー	◇全学年対象（対面）
	未定	民間企業志望者向け学内業界研究セミナー	◇全学年対象（対面）
	29 日	日 キャンパスフォーラム（合同業界研究セミナー）	★主に学部3年生・院1年生（対面）
12 月	未定	模擬グループディスカッション講座	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）
1 月	未定	公務員志望者向け直前準備講座	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）
	未定	公務員志望者向け講座	●主に学部2年生（対面）
2 月	未定	国家公務員・国立大学法人等職員説明会	◇全学年対象（対面+オンライン（ハイブリッド開催））
	未定	就活直前対策講座（オンライン）	★主に学部3年生・院1年生
	未定	第0回就活スタート準備講座	●主に学部1・2年生（オンライン）
3 月	未定	学内合同企業説明会	★主に学部3年生・院1年生
	未定	学内個別企業説明会	★主に学部3年生・院1年生（対面）

※内容・日程は変更となる場合があります

◇令和8年3月卒業（修了）者の就職状況等

令和8年5月1日現在

区 分			学部等	教育学部	教育学研究科	
					研究科生	内現職
卒業者数				175	13	9
進学者数				15 9%	0	0
就職者数				152 87%	13	9
産 業 別 就 職 者 数	教 育	小学校		60	6	5
		中学校		15	5	3
		高等学校		4	1	
		幼稚園		9		
		特別支援		8	1	1
		大学				
		その他教育		2		
		小計		98 64%	13	9
	産 業 別	農・林・水産業				
		建設業				
		製造業		4		
		電気・ガス・熱供給・水道業				
		情報通信業		7		
		運輸業、郵便業		2		
		卸売・小売業		5		
		金融・保険業		6		
		不動産業、物品賃貸業		1		
		学術研究、専門・技術サービス業		1		
		宿泊業、飲食サービス業				
		生活関連サービス業、娯楽業		2		
		医療、福祉		4		
		複合サービス事業				
		サービス業		6		
		小計		38 25%	0	0
		国家公務		4		
		地方公務		12		
		その他				

※主な進路先

【進 学】香川大学大学院（教職大学院） 岡山大学大学院 兵庫教育大学大学院 他

【教員関係】香川県教員 岡山県教員 徳島県教員 兵庫県教員 愛媛県教員 広島県教員 東京都教員 神奈川県教員 他

【医療・福祉】大阪市保育士 （一社）デフノバ （株）ケアリッツ・アンド・パートナーズ 他

【公務関係】国税庁 香川労働局 四国財務局 航空自衛隊 香川県庁 岡山県庁 高松市役所 岡山市役所 他

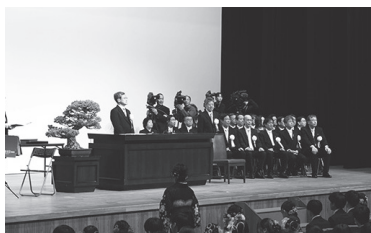
【企 業】（株）百十四銀行 （株）中国銀行 （株）三菱UFJ銀行 東亜合成（株）コムチュア（株）

（株）両備システム ファーストリテイリング（株）（株）キメラ （株）BREXA Technology 他

◇令和7年度卒業式及び卒業生を送る会について

令和8年3月24日、令和7年度卒業式が香川大学講堂において挙行政され、教育学部では、175名が卒業しました。

卒業式後は、415講義室において学位記を配布しました。また、後援会（幸楠会）が同窓会（松楠会）と共催して「卒業生を送る会」を大学会館1階生協食堂において開催しました。最初に平学部長より卒業生に対して、これからの活躍に期待するとの挨拶があり、次いで藤本泰雄同窓会会長の祝辞の後、卒業生を代表して白川結月さんが謝辞を述べました。上田夏生学長にもお越しいただき、会場は和やかな雰囲気の中で、在学中の思い出話などに花を咲かせました。



◇令和8年度入学式

令和8年4月7日、あなぶきアリーナ香川メインホールにおいて入学式が挙行政され、教育学部には新入学生として167名、編入学生は5名、総計172名が入学しました。

令和8年4月3日、415講義室にて新入生学部ガイダンスを行いました。まず平学部長からの挨拶、次いで役職者・クラス担任等の紹介、在学生代表 田中実玖さんからの祝辞の後、6クラスに分かれて大学からの通知メール受信方法の設定等、大学生活に必要な説明を行いました。



【教育学部後援会（幸楠会）総会報告】

◇総会の開催

午前中の役員会に引き続き、午後1時から総会が開催され、50名ほどの会員の方々が出席されました。
協議題について審議・承認後、学生支援専門委員会委員長から、卒業生の就職状況並びに教員給与の動向に関する説明がありました。
また、就職活動支援の充実について意見交換がなされました。

- | | |
|-------|---|
| 日 時 | 令和8年6月6日（土）13時～ |
| 会 場 | 教育学部 415 講義室（1階） |
| 協議題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 役員の改選について 2. 令和7年度事業報告及び決算について 3. 監査報告について 4. 令和8年度事業計画及び予算について 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> ①会報第23号の発行について ②役員会・総会の開催時期について |
| その他事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職状況の説明 2. 保護者からのご質問等 |

◇教員との懇談会

- | | |
|------|---------|
| 懇談時間 | 総会終了後 |
| 場 所 | 各教員研究室等 |



◇令和7年度 教育学部後援会（幸楠会）事業報告

〈学生指導支援事業〉

学校教育教員養成課程学生教材費支援，教育実習・保育実習・介護体験費用支援，水泳実習支援，新入生ガイダンス，コンピュータガイダンス開催費用支援，その他学生指導の支援

〈就職活動支援事業〉

教員採用・公務員採用模擬試験受験者支援，就職ガイダンス・セミナー等開催支援，特別教育実習費用支援，インターンシップ活動支援，その他就職関係活動の支援

〈学生行事支援事業〉

大学祭の開催支援

〈国際交流支援事業〉

・大学間協定校

コロラド州立大学（アメリカ），チェンマイ大学（タイ），国立嘉義大学（台湾），ダルサラーム大学（ブルネイ）

・部局間協定校

クライストチャーチ工科大学（ニュージーランド），江西師範大学（中国），フライブルク教育大学（ドイツ），台北日本人学校（台湾）

教育学部と関係がある海外の協定校との交流支援，学生の留学支援，留学生交歓会の開催，国際交流活動の支援

〈地域交流支援事業〉

大学説明会，オープンキャンパス，未来からの留学生開催支援

〈図書購入支援事業〉

教育実習生用教科書・指導書購入支援

〈教育環境整備支援事業〉

薬用液体泡ハンドソープの整備，講義室ブラインドの更新

〈卒業記念事業〉

学位記ホルダーの配付，卒業生を送る会の開催

〈会報発行事業〉

会報第22号の発行

〈その他事業〉

入試支援，教育学部の諸行事の開催支援

◇令和7年度 教育学部後援会（幸楠会）決算書

収入の部

(単位:円)

費 目	予算額 A	決算額 B	差額 B-A	決 算 額 内 訳
前年度繰越金	306,244	306,244	0	
入 会 金	1,060,000	1,220,000	160,000	新入生114名 編入生1名 過年度入学生7名
会 費	2,110,000	2,430,000	320,000	新入生114名 編入生1名 過年度入学生7名
預 金 利 子	756	11,007	10,251	
そ の 他	1,000,000	1,000,000	0	定期預金の解約
合 計	4,477,000	4,967,251	490,251	

支出の部

(単位:円)

費 目	予算額 A	決算額 B	差額 A-B	決 算 額 内 訳
学生指導援助費	950,000	912,286	37,714	学校教育教員養成課程学生教材費603千円、公立学校教育実習費17千円、新入生ガイトンス123千円、新入生コンピュータガイトンス4千円、水泳実習補助50千円、保育実習施設謝金76千円、定年退職教員記念品40千円
就職活動援助費	460,000	214,082	245,918	教員採用・公務員採用模擬試験支援51千円、就職ガイトンス・セミナー等開催96千円、特別教育実習補助50千円、インターンシップ補助17千円
学生行事援助費	100,000	100,000	0	大学祭補助100千円
国際交流援助費	240,000	332,347	▲ 92,347	協定大学との交流299千円、留学生交歓会補助費34千円
地域交流援助費	410,000	207,402	202,598	オープンキャンパス支援160千円、未来からの留学生事業支援48千円
図 書 費	600,000	600,000	0	教育実習生用教科書・指導書購入支援600千円
教育環境整備費	400,000	374,444	25,556	非常時用保存水、詰替用液体ハットソープ65千円、講義室プライド取替310千円
卒業記念事業費	350,000	370,600	▲ 20,600	学位記裱ダ-205千円、卒業生を送る会（記念品・花）166千円
会 報 発 行 費	200,000	136,950	63,050	会報No.22 137千円
会 議 費	42,000	45,720	▲ 3,720	役員会・総会開催46千円
事 務 費	260,000	232,848	27,152	役員会・総会案内等郵送料41千円、後援会事務費98千円、振込手数料24千円、後援会事務用PC70千円
雑 費	47,000	21,085	25,915	入試業務補助費11千円、式典用生花10千円
新規積立金 (定期預金)	0	0	0	
予 備 費	418,000	0	418,000	
小 計	4,477,000	3,547,764	929,236	
次年度繰越金		1,419,487	▲ 1,419,487	
合 計	4,477,000	4,967,251	▲ 490,251	

留保金（定期預金）

(単位:円)

事 項	預金額
令和7年度新規積立金	0
令和7年度末預金額	6,910,000
合 計	6,910,000

◇令和 8 年度 教育学部後援会（幸楠会）事業計画

〈学生指導支援事業〉

学校教育教員養成課程学生教材費支援，教育実習・保育実習・介護体験費用支援，水泳実習支援，新入生ガイダンス，コンピュータガイダンス開催費用支援，その他学生指導の支援

〈就職活動支援事業〉

教員採用・公務員採用模擬試験受験者支援，就職ガイダンス・セミナー等開催支援，特別教育実習費用支援，インターンシップ活動支援，その他就職関係活動の支援

〈学生行事支援事業〉

大学祭の開催支援，その他学生行事支援

〈国際交流支援事業〉

・大学間協定校

コロラド州立大学（アメリカ），チェンマイ大学（タイ），国立嘉義大学（台湾），ダルサラーム大学（ブルネイ）

・部局間協定校

クライストチャーチ工科大学（ニュージーランド），江西師範大学（中国），フライブルク教育大学（ドイツ），台北日本人学校（台湾）など

教育学部と関係がある海外の協定校との交流支援，学生の留学支援，留学生交歓会の開催，その他国際交流活動の支援

〈地域交流支援事業〉

大学説明会，オープンキャンパス，未来からの留学生，その他地域との交流活動の支援

〈図書購入支援事業〉

教育実習生用教科書・指導書購入支援

〈教育環境整備支援事業〉

キャンパス内環境向上を目的とした教育環境整備

〈卒業記念事業〉

学位記ホルダーの配付，卒業生を送る会の開催

〈会報発行事業〉

会報第 23 号の発行

〈その他事業〉

入試支援，その他教育学部の諸行事の開催支援など

◇令和8年度 教育学部後援会（幸楠会）予算書

収入の部

(単位:円)

費 目	予 算 額	予 算 額 内 訳
前年度繰越金	1,419,487	
入 会 金	1,480,000	新入生 145 名 編入生 3 名
会 費	2,930,000	新入生 145 名 編入生 3 名 (下段に内訳あり)
預 金 利 子	10,513	
そ の 他	0	
合 計	5,840,000	

支出の部

(単位:円)

費 目	予 算 額	使 途 内 訳
学 生 指 導 援 助 費	1,000,000	学校教育教員養成課程学生教材費, 体育実技指導補助, 水泳実習補助, 新入生がイダンス, コンピューターがイダンス, 学生研究旅行引率補助, 保育実習・介護体験等費用支援, 教職自主サークル活動支援, 定年退職教員記念品
就 職 活 動 援 助 費	500,000	教員採用・公務員採用模擬試験支援, 就職がイダンス・セミナー等開催, 特別教育実習補助, インターンシップ補助, 就職関係図書購入, 就職委員活動支援
学 生 行 事 援 助 費	100,000	大学祭補助
国 際 交 流 援 助 費	400,000	学生の交流協定校への派遣・語学研修留学支援, 協定大学との交流, 留学生交歓会補助
地 域 交 流 援 助 費	300,000	大学説明会, オープンキャンパス, 「未来からの留学生」などの地域交流活動の助成
図 書 費	880,000	教育実習生用教科書・指導書購入支援
教 育 環 境 整 備 費	1,000,000	学生のための構内環境向上を目的とした設備整備支援
卒 業 記 念 事 業 費	400,000	学位記ホルダー購入, 卒業生を送る会開催費用
会 報 発 行 費	150,000	会報第 23 号の発行 (WEB)
会 議 費	50,000	役員会・総会の開催費用
事 務 費	260,000	後援会通信費, 後援会事務費, 消耗品等の購入
雑 費	50,000	その他諸雑事の経費
新規積立金 (定期預金)	0	
予 備 費	750,000	各費目の不足時に充当
合 計	5,840,000	

留保金残高 (定期預金)

(単位:円)

事 項	預金額
令和7年度末預金額	6,910,000
令和8年度解約	0
合 計	6,910,000

会費予算額内訳

145 名 * 20,000 円 = 2,900,000 円
 3 名 * 10,000 円 = 30,000 円

【香川大学教育学部後援会（幸楠会）会則】

（名称）

第1条 香川大学教育学部後援会は、幸楠会（以下「本会」という。）と称する。

（目的）

第2条 本会は、学部と家庭との連絡を密にするとともに、学部教育事業を後援することを目的とする。

（組織）

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- （1）正会員 教育学部学生の保護者
- （2）特別会員 教育学部教職員
- （3）賛助会員 本会の事業を賛助する者

（事務所）

第4条 本会の事務所は、香川大学教育学部内に置く。

（事業）

第5条 本会は、次の事業を行う。

- （1）学部と家庭との連絡
- （2）学部教育事業の後援
- （3）その他本会の目的を達するに必要な事業

（役員）

第6条 本会に次の役員を置く。

- （1）会長 1名
- （2）副会長 2名
- （3）監事 2名
- （4）顧問 1名
- （5）理事 正会員から各学年若干名、特別会員から若干名

（役員の任務）

第7条 会長は、会務を総理し、本会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 監事は、会計を監査する。

4 顧問は、会長の諮問に応ずる。

5 理事は、会務を処理する。

（役員の選任）

第8条 会長、副会長、監事及び理事（正会員）は、正会員の中から役員会の議決を経て総会において選任する。

2 理事（特別会員）は、特別会員の互選により選任する。

3 顧問は、教育学部長に委嘱する。

（役員の任期）

第9条 会長、副会長、監事及び理事の任期は1年とし、再任を妨げない。

（会議）

第10条 本会に総会及び役員会を置く。

2 総会は、毎年1回開催し、役員を選任、事業報告及び決算、事業計画及び予算、その他の重要案件を協議する。

役員会は、随時開催し、総会の議事等を協議する。

（経費）

第11条 本会の経費は、正会員の入会金（10,000円）、会費（学生在学期間中年額5,000円）及び寄付金をもって充てる。

（予算及び決算）

第12条 本会の収支の予算及び決算は、理事が作成し、役員会の議決を経て総会の承認を得るものとする。

（会計年度）

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（会則の改正）

第14条 本会則の改正は、総会の議決を要する。

附 則

この会則は、平成16年7月19日から施行する。

附 則

この会則は、平成23年5月28日から施行する。

附 則

この会則は、平成26年5月31日から施行する。

【教育学部 教員一覧】

教育学部長：平 篤志
副学部長：高木由美子
副学部長：宮崎 英一
副学部長：金網 知征

★学部担当教員一覧はコチラから

<https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/teacher/teacher.html>

★大学院（教職大学院）担当教員一覧はコチラから

https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/teacher/g_teacher.html

編 集 後 記

平素より後援会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
香川大学教育学部後援会会報第 23 号をお届けします。

昨年度より会報を教育学部ホームページ内でご覧いただけるようになりましたので、ぜひご活用ください。

本年度の後援会（幸楠会）総会が、6 月 6 日（土）に開催されました。令和 7 年度の事業報告や決算、令和 8 年度の事業計画や予算等の協議題審議を終えた後、平学部長や篠原学生支援専門委員会委員長から教育学部の活動状況、本年 3 月卒業者の就職状況や就職活動支援の取り組み等の説明がありました。総会には約 50 名の方にご出席いただきました。総会終了後、学生の所属コース、領域、クラスごとに教員との懇談が行われました。

後援会会報には、学生が所属するコース・領域等の紹介、学部だより、教育研究などの活動紹介、地域連携、国際交流、就職・進学支援、後援会総会報告、教員の名簿等、教育学部におけるさまざまな情報を掲載し、会員の皆様に提供しております。

会報の内容については、会員の皆様からご意見やご要望等をお聞きし、より充実したものにしたいと思っています。今後とも、より一層のご協力をお願いいたします。

幸 楠 会 香川大学教育学部後援会会報 第 23 号

発行日 令和 8 年 9 月

発行者 香川大学教育学部後援会

〒 760-8522 香川県高松市幸町 1 番 1 号

香川大学教育学部内

TEL 087-832-1401・1404 FAX 087-832-1418



幸 楠会

香川大学教育学部後援会



香川大学キャラクター

細い線で「K」をモチーフにした動物(人)を描いています。「夢・個性」の発見に向けて、人一倍の「嗅覚(アンテナ)」を磨き生かし、知識、探究、思考、発想、実行を重ねながら、筋肉を身につけて魅力的な人となり社会に巣立つことをイメージしております。